



Agile Product Lifecycle Management

Product Quality Management ユーザー・ガイド

v9.2.2.3

部品番号 E06155-01

2008 年 4 月

著作権および商標について

Copyright © 1995, 2008, Oracle. All rights reserved.

このプログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段 (電子的または機械的)、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかるとの目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、Agile は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行 (製品またはサービスの提供、保証義務を含む) に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

著作権および商標について	ii
Product Quality Management の概要	1
Agile Product Quality Management とは	1
PSR (製品サービス依頼)	2
問題レポート (PR)	2
NCR (不具合レポート)	2
品質変更依頼 (QCR)	3
検証	3
是正・予防処置 (CAPA)	3
品質追跡の役割	4
品質追跡プロセス	5
品質関連のスマート ルール	6
品質検索	6
品質レポート	7
品質レポートの実行	7
その他のオブジェクトの品質追跡タブとフィールド	8
製品サービス依頼 (PSR) を使用する	9
PSR を作成する	9
PSR を作成する	10
アイテムから PSR を作成する	11
他の複数の PSR を集約する PSR の作成	12
[名前を付けて保存] を使用して PSR を作成する	14
PSR の [カバー ページ] タブ	15
PSR の [対象アイテム] タブ	17
NCR 対象アイテムの属性	18
対象アイテムを編集する	19
対象アイテムを追加する	20
対象アイテムを削除する	21
事例	21
[関連 PSR] タブ	22
関連 PSR を追加する	24
関連 PSR を編集する	25

関連 PSR を親 PSR に追加する	25
関連 PSR を削除する	26
[関係] タブ	27
関係 - クラス テーブル	27
[関係] タブの属性	30
関係ルール	31
[関係] テーブルにオブジェクトを追加する	32
[関係] テーブルでオブジェクトを編集および削除する	33
フィルタ	33
[プレビュー] ウィンドウ	34
PSR の [ワークフロー] タブ	34
PSR の [添付ファイル] タブ	35
PSR を提出、送付する	35
品質変更依頼を使用する	37
QCR を作成する	37
[名前を付けて保存] を使用して QCR を作成する	38
QCR を完了、編集する	39
PSR またはアイテムから QCR を作成する	40
QCR の [カバー ページ] タブ	41
QCR の [対象アイテム] タブ	43
QCR の [関係] タブ	43
QCR の [ワークフロー] タブ	44
QCR の [添付ファイル] タブ	44
QCR を提出、送付する	44
PSR を管理する	45
PSR を承認、却下、コメントを付ける	45
PSR をリリースする	45
PSR を削除する	46
PSR の削除を取り消す	47
PSR を終了する	47
PSR のアクション メニュー	48
QCR を管理する	49
QCR を承認、却下、コメントを付ける	49
QCR を承認する	49
QCR にコメントを付ける	50
QCR を却下する	50
QCR をリリースする	50
QCR を削除する	51

QCR の削除を取り消す	52
QCR を終了する	52
QCR のアクション メニュー	53
QCR から変更を作成する	53

はじめに

Oracle|Agile マニュアル セットには Adobe® Acrobat™ PDF ファイルが含まれます。[Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) には、Oracle|Agile PLM の最新版の PDF ファイルがあります。この Web サイトのマニュアルは、その場で表示することもダウンロードして使用することもできます。また、使用しているネットワーク上の Oracle|Agile マニュアル フォルダに Oracle|Agile マニュアル (PDF) ファイルが格納されている場合もあります。詳細は、Agile 管理者にお問い合わせください。

注意 PDF ファイルを表示するには、Adobe Acrobat Reader™ のバージョン 7.0 以降 (無料) を使用する必要があります。このプログラムは、[Adobe 社の Web サイト](http://www.adobe.com) (<http://www.adobe.com>) からダウンロードできます。

[Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) は、Agile Web クライアントと Agile Java クライアントのいずれの場合も、[ヘルプ]>[マニュアル] の順に選択してアクセスできます。さらに疑問点がある場合やサポートが必要な場合は、[サポート](http://www.oracle.com/agile/support.html) (<http://www.oracle.com/agile/support.html>) にお問い合わせください。

注意 Oracle|Agile PLM マニュアルに関する問題について Agile サポートにお問い合わせいただく前に、タイトル ページにある完全な部品番号をご準備ください。

Oracle サポート サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

Readme

Oracle|Agile PLM の最新情報は、すべて [Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) にある Readme ファイルに記載されています。

Agile トレーニング支援

Agile トレーニングの講義内容詳細については、[Oracle University Web ページ](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) (http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) にアクセスしてください。

ドキュメント内のサンプル コードのアクセシビリティについて

スクリーン リーダーは、ドキュメント内のサンプル コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Product Quality Management の概要

扱うトピックは次のとおりです。

▪ Agile Product Quality Management とは	1
▪ PSR (製品サービス依頼).....	2
▪ 品質変更依頼 (QCR)	3
▪ 品質追跡の役割	4

Agile Product Quality Management とは

Agile Product Quality Management (PQM) は、会社全体の製品品質に関するデータを追跡・管理するための包括的なツールで構成されています。品質データには、顧客の不満、製品や製造の欠陥、フィールド障害、および拡張と是正・予防処置の依頼などがあります。Agile PQM は、顧客サービス、フィールド セールス、製造、およびエンジニアリングにおける企業の組織を統合して、組織を顧客やパートナーと緊密に結び付けることにより、互いの協力関係を作り上げます。

競争の激化に伴い、製品のライフサイクルが短くなっている一方で、顧客は質の高い製品を限られた時間内に最小のコストで得ようとしています。Agile PQM の機能を使用することによって、企業は業務を改善し、時間やコストを削減できます。

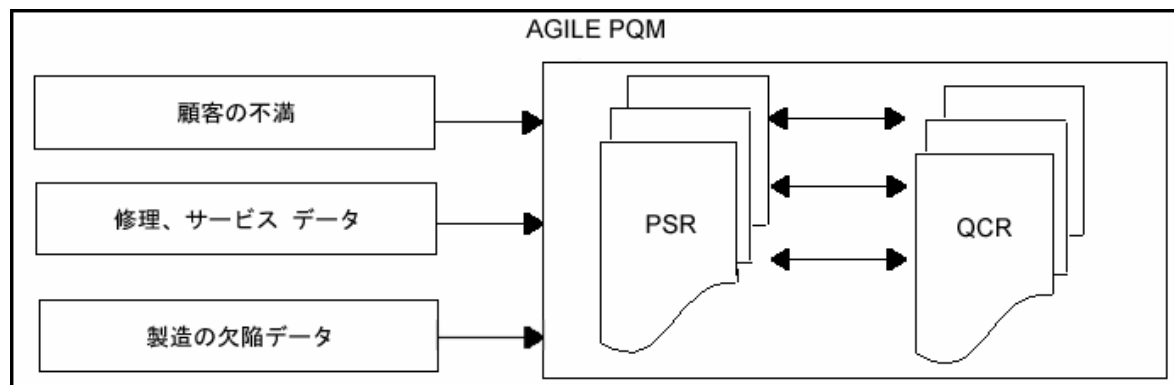
- 外部企業の CRM (顧客関係管理) システムとの統合 - 顧客の不満、製造上の問題点など、別の品質関連情報を他のエンタープライズ アプリケーションからインポートできるため、品質追跡プロセスが合理化され、製品品質データの追跡用の中央リポジトリが提供されます。
- 製品品質の改善 - 効率よく欠陥を低減し、製品の品質を向上させるには、タイムリーな欠陥の検出、傾向の把握、根本原因の特定が重要です。
- 顧客満足度の改善 - 問題レポートと顧客の不満を追跡し、顧客への対応および問題解決を迅速に行います。
- 生産、修理コストおよび保証コストの削減 - 欠陥を追跡して修正することにより、スクラップやサイクル時間、手直しや修理に関連するコストを削減しやすくなります。
- 新機能は ISO-9000、FDA、その他の規定に準拠しています。

注意 このマニュアルで説明しているオプションにアクセスするには、所属する企業で品質追跡機能を使用するためのライセンスを取得している必要があります。

Agile PQM ソリューションは、製品サービス依頼 (PSR) と品質変更依頼 (QCR) の 2 つの部分に分けられます。PSR は問題レポートおよび不具合レポートの管理に使用されます。QCR は、問題レポートを管理し、検証および是正・予防処置 (CAPA) と関連付けるために使用します。

顧客とサプライヤも Agile PQM ソリューションに関わりがあります。顧客もサプライヤも PSR を提出することができます。

次の図は、様々なソースから PSR と QCR への品質データの流れを示しています。



PSR (製品サービス依頼)

製品サービス依頼 (PSR) を使用すると、品質問題を報告したり、または複数の PSR を集約できます。製品サービス依頼のクラスには、問題レポート (PR) と不具合レポート (NCR) があります。PR は一般的な品質問題の報告に使用し、NCR はマテリアルの仕様違反やその他の特定の品質問題の報告に使用します。

問題レポート (PR)

問題レポートには、発生した問題に関する顧客の観点からの簡単な説明が含まれます。問題レポートは、顧客、フィールド サービス担当者、サプライヤから提出されます。

顧客から報告された問題が、常に実際の原因であるとは限りません。たとえば、ある PR (問題レポート) に、CD ドライブがコンピュータ ケースにロックされておらず、その原因はロックの故障であるとレポートされているとします。実際の原因はロックの故障以外であるかもしれませんが、組織内で問題を調査するまでわかりません。

問題レポートは、ワークフローを使用して調査を依頼するために送付することができます。送付後、調査チームは問題の根本原因を調べ、品質分析者の役割が割り当てられているユーザーは、問題レポートの処理を監視します。

Agile Import または Agile SDK を使用することにより、各種 CRM システムから問題レポートをインポートすることができます。

NCR (不具合レポート)

不具合レポート (NCR) は、顧客、フィールド サービス担当者、サプライヤから提出され、1 つまたは複数の製品に対するマテリアルの基本的な仕様違反や要件違反について報告します。また、不具合レポートを送付することにより調査を依頼できます。

NCR は通常、ロットの調査やテストに使用します。品質管理部門は、マテリアルの一部をサンプリングして仕様違反を特定します。

品質変更依頼 (QCR)

品質変更依頼 (QCR) クラスは、検証や是正・予防処置 (CAPA) の作成と管理に使用します。検証は品質要件への適合性を確認する事前対応プロセスです。CAPA は、一般的な品質問題を解決し、根本原因の分析を行って是正・予防処置を実施するための正式なプロセスです。

QCR を使用すると、問題が発生した場合に送信可能な品質記録に集約して根本原因不良分析を実行し、標準の CAPA (是正・予防処置) の手順を使用して問題を解決できます。CAPA を実行した結果、製品、プロセス、またはサプライヤが変更されることがあります。

QCR を使用すると、次の操作を実行できます。

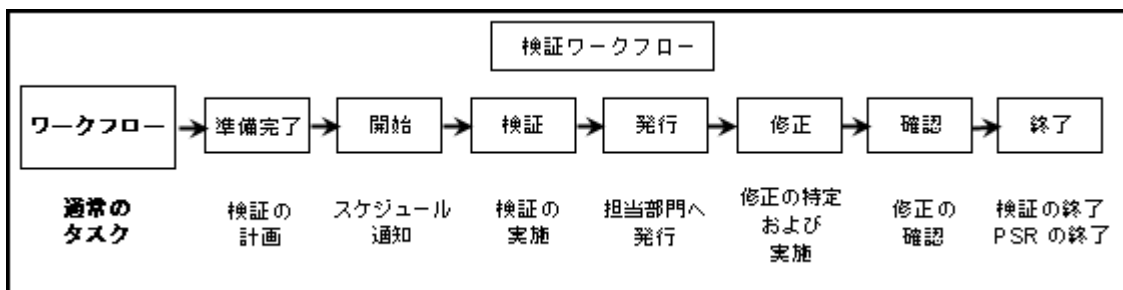
- 製品、ドキュメント、サプライヤ、および顧客に関する問題を集約する品質記録を作成して管理する。
- 変更 (ECO、MCO、ECR、出荷停止、期限付き設計変更など) を作成し、品質関連の変更を行う。
- 変更依頼を送付して確認と証人を依頼する。これにより、作成者 (品質管理)、根本原因不良分析 (品質管理および設計)、解決 (設計)、是正・予防処置 (品質管理)、コミュニケーション (顧客およびサプライヤ)、および確認 (適合性および検証) の各部門間における連携と協力が可能になります。
- 問題、是正・予防処置、および設計変更の間で検証を行う。これにより、企業の内部と外部を結ぶ適合性プロセスが実現します。

たとえば、サプライヤからアイテムを受け取り、その品質をテストして欠陥アイテムを特定します。是正処置を行うには、欠陥アイテムの QCR を作成して送付し、確認と承認を依頼します。品質変更依頼が承認されると、変更を使用してアイテムを送付できます。これにより欠陥が修正され、アイテムの新しいリビジョンに変更されます。

検証

検証は品質要件への適合性を確認する事前対応プロセスです。

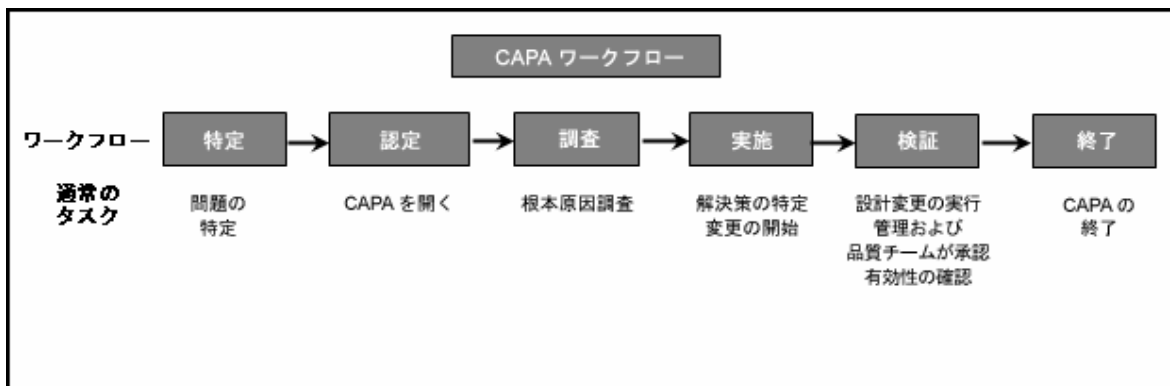
[デフォルトの検証] ワークフローには、他のデフォルトのワークフローとは異なるステータスがあります。次の図は、[デフォルトの検証] ワークフロー ステータスと検証に伴う通常のタスクを示しています。



是正・予防処置 (CAPA)

是正・予防処置 (CAPA) を使用すると、PSR の一般的な品質問題に対処できます。CAPA を実行すると、問題の解決につながる 1 つまたは複数の変更が作成されます。CAPA は送信可能なオブジェクトであり、ワークフローによって管理されます。

デフォルトの CAPA ワークフローのステータスは、他のデフォルトワークフローとは異なります。次の図は、[デフォルトの CAPA] ワークフロー ステータスと検証に伴う通常のタスクを示しています。



品質追跡の役割

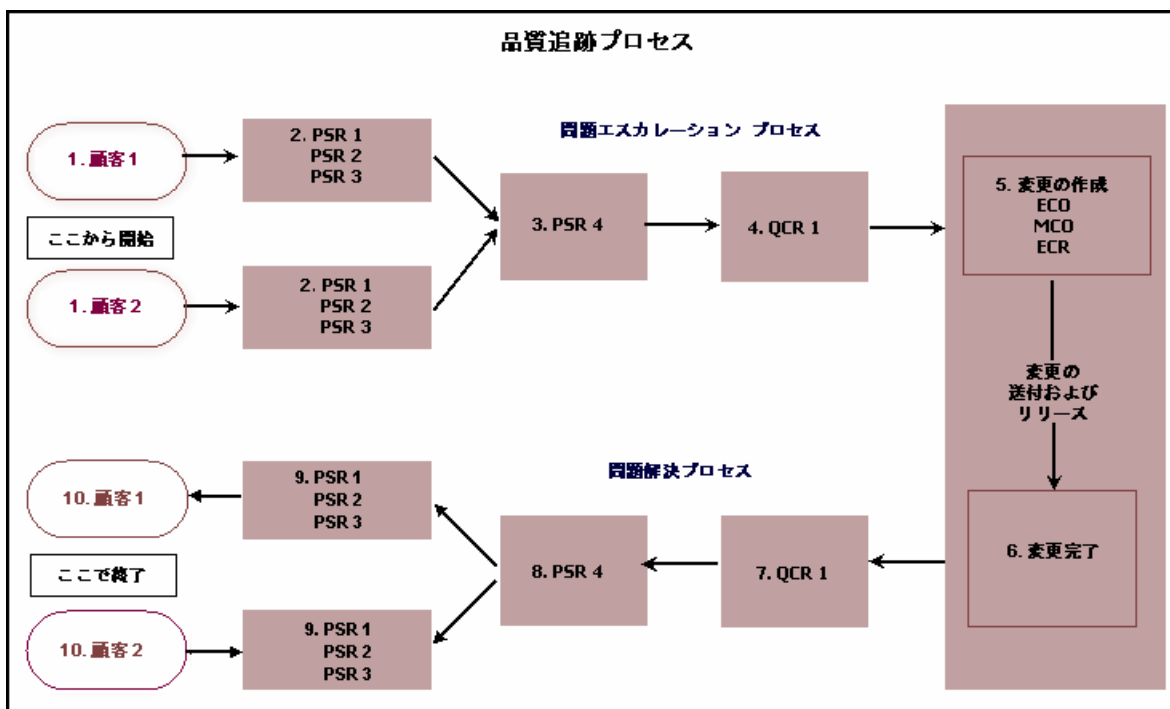
[Product Quality Management] は以下の役割を提供します。

- 品質分析者 - ユーザーによる製品サービス依頼の提出とソリューションの管理を可能にします。
- 品質管理者 - ユーザーによる品質変更依頼の管理を可能にします。

Agile 管理者が、システムでこのように役割を設定していないこともあります。Agile PLM の役割の詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

品質追跡プロセス

Product Quality Management ソリューションは柔軟性に優れています。そのため、ビジネス プロセスに合わせて調整できます。次の図は、品質問題プロセスの一例を示しています。この図では、各ステップに番号を付けて説明しています。



上の図のステップについて、具体的に説明します。

- 2 人の顧客 (顧客 1 と顧客 2) が品質問題を報告します。
- サポート担当者が、報告された問題に対して PSR を作成します (顧客 1 に PSR-1、PSR-2、PSR-3、顧客 2 に PSR-1、PSR-2、PSR-3)。これらの問題レポートは品質分析者に提出されます。
- 品質分析者は、異なる顧客からの PSR をすべて確認します。これらの PSR の問題がすべて関連していると判断した場合、品質分析者は、PSR を 1 つに集約して PSR-4 を作成します。次に、PSR-4 をワークフローを使用して送付し、次のプロセスに移行させます。
- 品質管理者が品質変更依頼 QCR-1 を作成します。この QCR には、この変更の対象アイテムのリストが含まれます。QCR が送付され、これを受け取ったエンジニアリング チームは、この依頼が有効であると判断し、問題に応じて変更プロセス (ECO、MCO、ECR、出荷停止、期限付き設計変更など) を決定します。
- 問題に対処するために変更が作成されます。変更分析者は、ワークフローを使用して変更を送付します。
- 変更が最終的に実施され、元の問題が修正されます。変更分析者は、品質管理者に通知を送ります。次に品質管理者は、変更が QCR で報告された問題に実際に対処しているかどうかを確認します。
- 品質管理者は、QCR を終了する措置を取ります。

8. PSR-4 は、[関係] タブで指定された関係に基づいて自動的に終了します。
9. 同様に、PSR-4 に集約された子 PSR も、すべてこの関係に基づいて自動的に終了します。
10. 品質分析者は、問題解決の通知を顧客 1 と顧客 2 に送信します。

上記で説明したプロセスは、一例にすぎません。また、Agile Product Quality Management は柔軟な機能を備えているため、問題レポートを関連付けることなく、送信可能なオブジェクトを作成したり、問題レポートなしで QCR を作成することもできます。また、複数の問題を 1 つの QCR に関連付けることができます (ただし、1 つの問題を複数の QCR に関連付けることはできません)。QCR と変更 (ECO や SCO など) の関連付けでは、一対多と多対一の両方の関係が可能です。

品質関連のスマート ルール

スマート ルールは、Agile PLM において特定の動作を管理する方法を選択するための、システム全体を通じた設定です。Agile 管理者はこれらの設定を変更することができます。以下のスマート ルールは、Product Quality Management プロセスに関連しています。

- PSR に対する多数のアイテム
- PSR に対する多数の QCR
- アイテムと関連 PSR を含む PSR
- 未解決アイテムとともに QCR をリリースする

これらのスマートルールについてのより詳細な説明は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

アイテムと関連 PSR を含む PSR スマート ルールは、PSR の [対象アイテム] タブと [関連 PSR] タブの動作を管理します。スマート ルールが [可] に設定されている場合、PSR で [対象アイテム] と [関連 PSR] タブの両方が使用できます。そうでなければ、[対象アイテム] タブと [関連 PSR] タブは相互排除の関係にあります。つまり、[対象アイテム] タブにアイテムが表示されると、[関連 PSR] タブは利用できなくなります。[関連 PSR] タブが PSR を表示すると、[対象アイテム] タブは利用できなくなります。このため、PSR を他の PSR の集約に使用するか、またはアセンブリ アイテムに対する問題レポートとして使用するかを選択することができます。

品質検索

特定の PSR と QCR を検索するには、[品質検索] フォルダから必要な検索条件を選択して簡易検索を実行します。たとえば品質管理者が、未割当の PSR をすべて品質分析者に割り当てる場合、それらの PSR を簡易検索で見つけることができます。品質検索の例は次のとおりです。

- 未割当の製品サービス依頼
- オープン状態の製品サービス依頼
- X 時間以上前に提出された製品サービス依頼
- X 時間以上前に提出された品質変更依頼
- 終了した品質変更依頼
- リリース済みの品質変更依頼
- 未割当で提出済みの品質変更依頼
- オープン状態の品質変更依頼

注意 [品質検索] フォルダを表示できるのは、Agile PLM 管理者がプロファイルで設定しているユーザーのみです。

品質レポート

Agile PLM は、Agile Product Quality Management でデータを分析するための標準レポートを提供しています。Agile Web クライアントのナビゲーション ウィンドウで、[分析とレポート]>[品質レポート] フォルダに以下のレポートが表示されます。

レポート名	説明
不具合トレンド	不良モード オーバータイムの傾向を表示する。このレポートの結果に基づいて、製品の品質に最も大きく影響するアイテムに対する修正措置に労力を集中できる。指定期間中に対象となった数量のレポートを作成するために、製品サービス依頼には [対象アイテム] の [対象数量] フィールドで指定された値を記載する必要がある
品質状況	一定期間中に処理された品質問題 (製品サービス依頼および品質変更依頼) を表示する
品質バックログ	指定された一定期間中にステータスの移行が行われなかった、特定のステータスの品質問題 (製品サービス依頼および品質変更依頼) の数を表示する
品質サイクル時間	指定した製品サービス依頼と品質変更依頼 (PSR と QCR) が、指定した期間内に、あるステータスから別のステータスに移行する際に要した時間を計算する。 このレポートは、依頼と、それぞれの PSR または QCR が 2 つのステータス間の推移に要した平均時間を期間ごとに表示する。たとえば、PSR や QCR がこの 1 年間に「提出済み」から「リリース済み」に移行する際に要した平均時間が、月ごとに製品ライン別にまとめて表示される
品質メトリックス	指定された期間中に特定のステータスに移動した品質問題 (製品サービス依頼および品質変更依頼) を表示する

各品質レポートには [レポート ウィザード] があります。ウィザードに従って操作し、最終ページで [完了] をクリックしてレポートを表示します。

品質レポートの実行

品質レポートを実行するには

1. [品質レポート] フォルダにあるレポートを選択します。レポートのページが表示されます。
2. [実行] ボタンをクリックします。[レイアウトと環境設定の選択] ページが表示されます。
3. 希望するレイアウトをドロップダウン リストから選択するか、[レイアウト マネージャ] を使用して新しいレイアウトを作成します。
4. [次へ] をクリックします。品質レポートを使用して (品質状況レポートを除き)、レポートで使用する製品サービス依頼を検索できます。
5. 利用可能な検索リストの検索条件を使用する場合は、[保存された検索] をクリックします。新しい検索条件を作成する場合は、[詳細検索] をクリックします。また、[すべての製品サービス依頼] を選択すると、すべての PSR を使用できます。

6. [次へ] をクリックします。
7. レポートに関する他の設定を指定します。以下のような項目を設定します。
 - 対象とする期間
 - レポートで使用する時間単位
 - レポートで使用するワークフロー
 - データをグループ化してトレンドを評価する方法
8. [完了] をクリックして、レポートを表示します。

レポートが表示されたら、印刷したり、内容を区切りテキスト ファイル (CSV) や Microsoft Excel ワークブックにエクスポートしたり、[履歴レポート] タブに保存することができます。

その他のオブジェクトの品質追跡タブとフィールド

特定のタブやフィールドの品質情報は、アイテム、顧客、サプライヤなどのオブジェクトに関する情報とリンクされており、社内のユーザーは設計の際に特定の部品を組み込むことの品質リスクを評価することができます。

- アイテムの [品質] タブでは、このアイテムに対して報告されたすべての PSR が表示されます。
- 顧客オブジェクトの [PSR] タブには、顧客によりこれまで提出されたすべての品質問題が一覧表示されます。ここで顧客満足度を評価することができます。
- サプライヤ オブジェクトの [PSR] タブには、サプライヤに対してこれまで提出されたすべての品質問題が一覧表示されます。これは、サプライヤから購入する際の品質実績の評価に影響を及ぼし、そのサプライヤの格付けと優先順位を確定する上での基準になります。

製品サービス依頼 (PSR) を使用する



扱うトピックは次のとおりです。

▪ PSR を作成する	9
▪ PSR の [カバー ページ] タブ	15
▪ PSR の [対象アイテム] タブ	17
▪ [関連 PSR] タブ	22
▪ [関係] タブ	27
▪ PSR の [ワークフロー] タブ	34
▪ PSR の [添付ファイル] タブ	35
▪ PSR を提出、送付する	35

PSR を作成する

PSR オブジェクトは、他の Agile PLM オブジェクトと同様に作成されます。[新規オブジェクト] ボタンまたは [名前を付けて保存] 機能を使用できます。PSR オブジェクトを作成するには適切な権限が必要です。

Java クライアントで PSR を作成するには

1. メイン ツールバーで [新規オブジェクト] ボタン  をクリックします。[新規] ダイアログ ボックスが開きます。
2. [タイプ] リストから NCR または問題レポートを選択します。
3. [番号] のフィールドで、デフォルトの番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
4. [OK] をクリックします。[カバー ページ] タブが表示されます。
5. 必要な情報を [カバー ページ] タブに入力します。
6. [保存] をクリックします。このタブのフィールドの詳細は、「[PSR の \[カバー ページ\] タブ](#)」を参照してください (15 ページの「PSR の [カバー ページ] タブ」)。

Agile Java クライアントが PSR を作成し、[PSR] ウィンドウが [カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。PSR にワークフローを割り当てていない場合、作成された PSR は「未割当」ステータスになります。ワークフローを割り当てるには、[ワークフロー] のドロップダウン リストからワークフローを選択します。

複数のアイテムを PSR に追加することもできます (部品、ドキュメント、アセンブリなど)。アイテム追加の詳細は、20 ページの「[対象アイテムを追加する](#)」を参照してください。

注意 システムのスマート ルール設定によっては [対象アイテム] タブにアイテムを追加した後、[関連 PSR] タブが無効になる場合があります。

Web クライアントで PSR を作成するには

1. メイン ツールバーから [作成]>[製品サービス依頼]>[問題レポート] または [不具合レポート] にジャンプします。
2. [PSR レポート作成] ウィザードが開いたら、リストからサブクラスを選択します。
3. [番号] フィールドで、デフォルトの番号をそのまま使用します。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン 123 をクリックして次の番号を自動的に入力します。
4. [次へ] をクリックします。[カバー ページの情報を入力] ページが表示されます。
5. 必要な情報を入力します。このタブのフィールドの詳細は、「[PSR の \[カバー ページ\] タブ](#)」を参照してください (15 ページの「PSR の [カバー ページ] タブ」)。
6. [完了] をクリックします。

Agile Web クライアントが PSR を作成し、[PSR] ウィンドウが [カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。ワークフローが PSR に割り当てられていない場合、「未割当」ステータスとなります。ワークフローを割り当てるには、[カバー ページの] の [編集] ボタンをクリックし、[ワークフロー] ドロップダウン リストからワークフローを選択します。

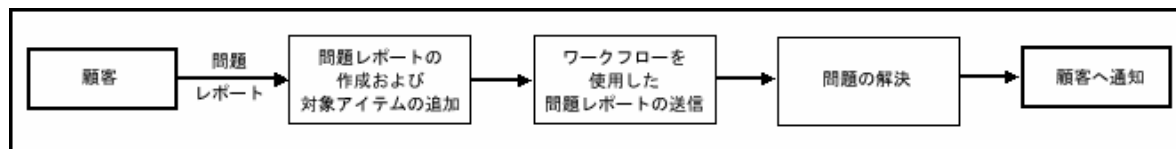
複数のアイテムを PSR に追加することもできます (部品、ドキュメント、アセンブリなど)。アイテム追加の詳細は、20 ページの「[対象アイテムを追加する](#)」を参照してください。

注意 システムのスマート ルール設定によっては [対象アイテム] タブにアイテムを追加した後、[関連 PSR] タブが無効になる場合があります。

PSR を作成する

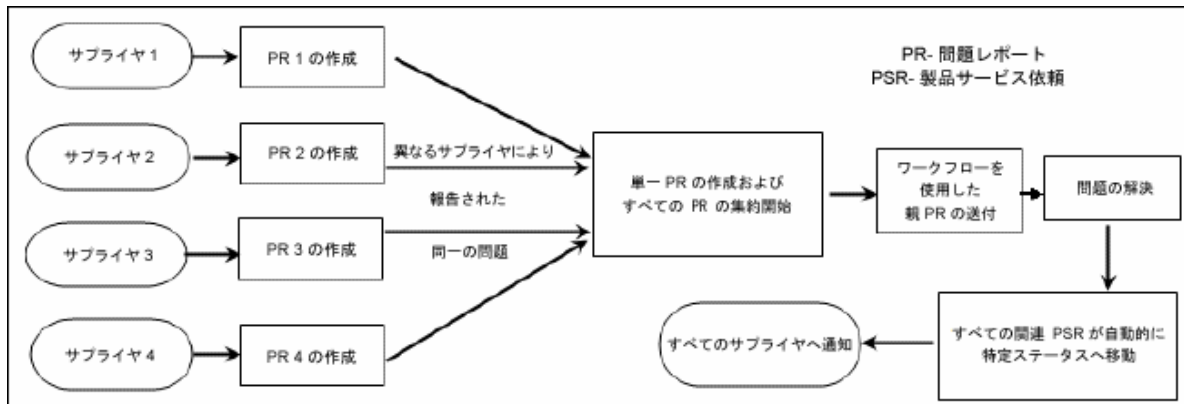
製品サービス依頼 (PSR) は、問題の品質により様々な方法で作成することができます。以下に 2 つの例を示します。

- 1 つの品質問題を報告する PSR の作成 - たとえば、コンピュータ製造部門で働く品質分析者を想定します。顧客から CD の挿入/取り出しができないという CD ドライブの問題の報告を受けます。そこで品質分析者は、CD ドライブのアイテム (その関連部品とドキュメント) にこの問題について品質問題レポートを作成し、この問題が実際の欠陥なのか、あるいは単なるユーザーの操作ミスなのかを早急に調査するよう、品質保証部門に依頼します。



- 複数の PSR を集約する PSR の作成 - たとえば、ある製品の品質保証エンジニアを想定します。この担当者は、サプライヤから納品されたロット/出荷の中に、マテリアルの含有基準に適合していないものがあることに気付きました。この場合、これらの問題をすべて追跡して集約し、単一の PSR を作成できます。


次の図は、このプロセスの流れを示しています。



アイテムから PSR を作成する

アイテムから PSR を作成できます。


Java クライアントでアイテムから PSR を作成するには

1. PSR を作成するアイテムを開きます。
2. アイテム ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [製品サービス依頼の作成] を選択します。[製品サービス依頼の作成] のダイアログ ボックスが表示されます。
3. [タイプ] ドロップダウン リストから NCR または問題レポートを選択します。
4. [番号] のフィールドで、デフォルトの番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
5. [OK] をクリックします。必要な情報を [カバー ページ] タブに入力します。
6. [保存] をクリックします。

このタブのフィールドの詳細は、15 ページの「[PSR の \[カバー ページ\] タブ](#)」を参照してください。

Agile Java クライアントが PSR を作成し、[PSR] ウィンドウが [カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。新規 PSR の [対象アイテム] タブにアイテムが表示されます。

Web クライアントでアイテムから PSR を作成するには

1. PSR を作成するアイテムを開きます。
2. アイテム ページで、[アクション | 製品サービス依頼の作成] を選択します。[製品サービス依頼の作成] ウィザードが表示されます。
3. リストからサブクラス (問題レポートまたは NCR) を選択します。
4. [番号] のフィールドで、デフォルトの番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
5. [次へ] をクリックします。[カバー ページの情報を入力] ページが表示されます。

必要な情報を入力します。このタブのフィールドの詳細は、15 ページの「[PSR の \[カバー ページ\] タブ](#)」を参照してください。ワークフローを割り当て、ワークフロー ステータスを通して PSR を送付することができます。

6. アイテムをさらに追加する必要がある場合は [次へ] をクリックし、それ以外は [完了] をクリックします。

Agile Web クライアントが PSR を作成し、[PSR] ウィンドウが [カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。新規 PSR の [対象アイテム] タブにアイテムが表示されます。

他の複数の PSR を集約する PSR の作成

複数の問題を処理するために、多数の PSR を作成したとします。特定の問題が解決されたことで、既存の PSR に関連する問題もすべて解決されることが判明したとします。この場合、すでに作成している他の関連 PSR を集約することができます。関連 PSR を解決するために作成する PSR は、親 PSR と考えられ、[関連 PSR] タブに追加されたすべての PSR は子 PSR と考えられます。

Java クライアントで複数の PSR を集約する PSR を作成するには

1. 新規 PSR の基本となる PSR を開きます。
2. [ファイル | 名前を付けて保存] を選択するか、または右クリックして [名前を付けて保存] を選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [タイプ] リストから NCR または問題レポートを選択します。
4. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタンをクリックして次の番号を自動的に入力します。
5. [OK] をクリックします。

Agile Java クライアントが PSR を作成し、[PSR] ウィンドウが [カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。

[対象アイテム] タブでは、アイテムを追加しないでください。

6. [関連 PSR] タブで、関連 PSR を追加します。
関連 PSR をこの親 PSR に追加すると、子 PSR の [カバー ページ] タブに PSR 総数とこの親 PSR の数が表示されます。
7. 関連 PSR をクリックして選択します。
8. [PSR の編集] をクリックします。
9. [PSR の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。[PSR イベント] と [PSR 結果] ステータスを指定します。
10. [OK] をクリックします。

注意	システムのスマート ルール設定によっては [対象アイテム] タブにアイテムを追加した後、[関連 PSR] タブが無効になる場合があります。
-----------	---

フィールド	完了済み	内容
PSR イベント	手動	<p>自動ワークフロー イベントのきっかけとなる親 PSR のステータス。</p> <p>ドロップ ダウン リストから利用可能なステータスを選択すること。PSR にワークフローが割り当てられている場合にのみステータスを指定可能。このイベントの発生は、PSR が指定のステータスに達したことを意味する。</p> <p>注意: [PSR イベント] のステータスを指定できるのは、[カバー ページ] タブで親と子の両方のオブジェクトにワークフローが割り当てられている場合のみ</p>
PSR 結果	手動	<p>イベント ステータスに達した時点で、関連 PSR が昇格するステータス。ドロップ ダウン リストから利用可能なステータスを選択すること。PSR にワークフローが割り当てられている場合にのみステータスを指定可能。</p> <p>親 PSR が [PSR イベント] ステータスに達すると、関連 PSR のステータスは、このフィールドで指定した結果ステータスに自動的に移行する。</p> <p>注意: [PSR イベント] のステータスを指定できるのは、[カバー ページ] タブで親と子の両方のオブジェクトにワークフローが割り当てられている場合のみ</p>

Web サーバで複数の PSR を集約する PSR を作成するには

新規 PSR の基本となる PSR を開きます。[アクション]>[名前を付けて保存] の順に選択します。[名前を付けて保存] ページが表示されます。

1. [タイプ] リストから NCR または問題レポートを選択します。
2. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタンをクリックして次の番号を自動的に入力します。
[対象アイテムの追加] ページでは、アイテムを追加しないでください。
3. [次へ] をクリックします。
4. [製品サービス依頼の追加] ページで、[追加] をクリックして関連 PSR すべてを追加します。
5. この親 PSR に関連 PSR を追加した後、[関連 PSR] タブの各 PSR の [PSR 総数] 列には、親 PSR の数が表示されます。子 PSR の [カバー ページ] では、[PSR 総数] フィールドはこの親 PSR 番号により自動的に記入されます。
6. [完了] をクリックします。

Agile Web クライアントが PSR を作成し、[PSR] ウィンドウが [カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。


この親 PSR に関連 PSR を追加した後、[関連 PSR] タブの各 PSR の [PSR 総数] 列には、親 PSR の数が表示されます。子 PSR の [カバー ページ] では、[PSR 総数] フィールドにこの親 PSR の数が自動的に入力されます。

注意 システムのスマート ルール設定により、関連 PSR を追加した後、[対象アイテム] タブが無効と
なっている場合があります。

[名前を付けて保存] を使用して PSR を作成する

[名前を付けて保存] を使用して PSR を作成することができます。[名前を付けて保存] では、既存のオブジェクトのフィールドから新規オブジェクトの同じフィールドにデータがコピーされます。既存のオブジェクトのフィールドまたはリストの値が新規オブジェクトで使用できない場合、そのフィールドまたはリストの値は新規オブジェクトにコピーされません。[ユーザー定義 2] のデータは特定のサブクラスにのみ適用されるため、[名前を付けて保存] を使用してサブクラスの異なる新規オブジェクトを作成した場合、[ユーザー定義 2] のデータは新規オブジェクトにコピーされません。


Java クライアントで [名前を付けて保存] を使用して PSR を作成するには

1. 新規 PSR の基本となる PSR を開きます。
2. [ファイル | 名前を付けて保存] を選択するか、または右クリックして [名前を付けて保存] を選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [タイプ] リストから NCR または問題レポートを選択します。
4. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
5. [OK] をクリックします。

Agile Java クライアントが PSR を作成し、[PSR] ウィンドウが [カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。

6. タブに必要な変更を加え、[保存] をクリックします。

Web クライアントで [名前を付けて保存] を使用して PSR を作成するには

1. 新規 PSR の基本となる PSR を開きます。
2. [アクション]>[名前を付けて保存] の順に選択します。[名前を付けて保存] ページが表示されます。
3. [タイプ] リストから NCR または問題レポートを選択します。
4. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
5. [保存] をクリックします。新規オブジェクトが開きます。
6. タブに必要な変更を加え、[保存] をクリックします。

注意 一般に、クラスやサブクラスが元のオブジェクトと異なるオブジェクトを作成する場合は、[名前を付けて保存] は使用しないでください。クラスやサブクラスが違っていると、タブや定義されるフィールドが異なる場合があります、新しく作成したオブジェクトの一部のデータにアクセスできなくなることがあります。

次のフィールドが新規 PSR にコピーされます。

旧オブジェクトからコピーされるフィールド	自動生成されるフィールド
[カテゴリ]、[PSR タイプ]、[問題の説明]、[重大度]、[製品ライン]	作成者

旧オブジェクトからコピーされるフィールド	自動生成されるフィールド
[ユーザー定義 1] および [ユーザー定義 2] のユーザー設定フィールド	作成日
すべてのアイテム情報を [対象アイテム] タブよりコピー	[ステータス] フィールドは、デフォルトで「未割当」に設定される
すべての添付ファイルを [添付ファイル] タブからコピー	
[履歴] タブはソース オブジェクトとターゲット オブジェクトを反映	

Agile PLM 管理者によって適切なプリファレンスが設定されている場合、オプションの [ユーザー定義 1] と [ユーザー定義 2] セクションのフィールドが新規 PSR にコピーされます。使用中の Agile PLM システムにおける [ユーザー定義 1] と [ユーザー定義 2] フィールドの動作については、Agile PLM 管理者にお問い合わせください。

PSR の [カバー ページ] タブ


次の表で、PSR の [カバー ページ] タブの各フィールドについて説明します。

フィールド	完了済み	内容
PSR 番号	作成時に自動入力	PSR の作成時に割り当てられる番号 問題レポートのときは、番号の前に「PR」が付く 不具合レポートのときは、番号の前に「NCR」が付く
PSR タイプ	作成時に自動入力	PSR の作成時に選択したタイプ (サブクラス)
カテゴリ	手動	カテゴリのドロップダウンリスト。Agile PLM 管理者が定義する。以下のような項目がある 顧客の不満 検証 - 社外 予防処置
説明	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定。スペースと改行 (2 バイト) を含め 1,023 バイトまでの入力が可能
顧客	手動	この PSR に関する顧客のリスト
サプライヤ	手動	問題が発生したサプライヤのリスト、または問題の原因
重大度	手動	重大度のドロップダウン リスト。Agile PLM 管理者が定義する

フィールド	完了済み	内容
対応策	手動	対応策のドロップダウン リスト。Agile PLM 管理者が定義する [対応策] フィールドは、PSR の解決方法を示すコードを表示する。対応策の例は、[コンポーネントの置換]、[手直ししてスペックを設定] 等
予定解決日	手動	問題の解決予定日
品質分析者	ワークフローによる自動入力が可能。ドロップダウン リストから手動での選択も可能。リストには最初に部署、次に個々のユーザー名を表示	デフォルトの品質分析者 デフォルトの品質分析者に通知するようにワークフローが定義されている場合、このフィールドの部署またはユーザーは PSR に関する通知を受信するこのフィールドを空白のままにすると、リストのすべての品質分析者に通知が送信される。ワークフローの通知定義が空白の場合、通知は送信されない
ワークフロー	PSR に複数のワークフローが適用されている場合は、手動でワークフローを選択する。ワークフローは、PSR が「保留中」ステータスであるかぎり、いつでも変更可能。 [ワークフロー] ドロップダウン リストで空白のフィールドを選択すると、PSR は「未割当」のステータスに切り替わる。 ワークフローが割り当てられておらず、PSR を「未割当」ステータスから次のステータスへ移動すると、ワークフローを選択するよう促される	品質追跡プロセスに従ってこの PSR を処理するために使用されるワークフローの名前
ステータス	作成時に自動入力、PSR がワークフローを通過するのに従って更新	ワークフロー ステータスワークフローが選択されていない場合、このフィールドは [未割当]
作成者	作成時に自動入力	デフォルトの PSR 作成者その他の問題レポート作成者のドロップダウン リスト
作成日	通常は作成時に自動入力	この PSR が作成された日付
提出日	ワークフロー ステータスに基づいて自動生成	PSR がワークフローで「提出済み」ステータスに移行した日付
リリース日	ワークフロー ステータスに基づいて自動生成	PSR がワークフローで最初の [リリース済み] ステータスに移行した日付
最終完了日	ワークフロー ステータスに基づいて自動生成	PSR がワークフローで [完了] ステータスに移行した日付

フィールド	完了済み	内容
PSR 総数	PSR が [関連 PSR] タブに追加されるときに自動入力 たとえば、[関連 PSR] タブで PSR005 が PSR003 と PSR004 を一覧表示している場合、PSR003、PSR004、PSR005、親の [カバー ページ] タブは [PSR 総数] フィールドを表示する	番号が親 PSR 番号に基づき自動入力 例: 1 つの問題について、サプライヤからの複数の品質問題がすでに作成されているとき、これらの問題をすべて追跡して集約し、単一の PSR (親 PSR) を作成できる。 また、すべての関連 PSR の結果ステータスを、集約 PSR が特定の状態に達したときに自動的に変更するように設定可能
製品ライン	手動	この PSR が影響する製品ライン

PSR の [対象アイテム] タブ

[対象アイテム] タブには、現在の PSR の対象となるすべてのアイテムのリストが表示されます。単一の PSR によって複数のアイテム (部品やドキュメント) に影響を与えることができます。[対象アイテム] タブのアイコン  は、対象アイテムが含まれることを示します。

注意 PSR がワークフローの「リリース済み」ステータスに達していない場合のみ、対象となるアイテムを追加することができます。

PSR 作成時から変更された情報を編集することができます。解決の必要なその他のアイテム (部品、ドキュメント、アセンブリなど) を追加する必要がある場合もあります。QCR にも同じことが当てはまります。

[対象アイテム] テーブルには、デフォルトで次の列が含まれています。

フィールド	完了済み	内容
アイテム番号	作成時に自動入力	対象アイテムの番号
アイテムの説明	作成時に自動入力	アイテムの説明
見つかったリビジョン	手動	問題が見つかった対象アイテムのリビジョン。たとえば、アイテムが 5 回改訂され、リビジョン B でこの欠陥が特定された場合、[見つかったリビジョン] フィールドには、「B」が表示される。 Web クライアントでは、追加するアイテムを選択すると、このアイテムのすべてのリビジョンがドロップダウン リストに表示される。デフォルトでは最新のリリース済みリビジョンが表示される。そのアイテムの現在のリビジョン、古いリビジョン (最新モデルでは使用されない部品に関する問題点)、または保留中のリビジョンのいずれを報告するかを選択可能 注意: アイテムの複数のコピーを同一リビジョンで [対象アイテム] タブに追加できます。

フィールド	完了済み	内容
関連拠点	作成時に自動入力	対象アイテムに問題がある拠点
不良モード	手動	製品が故障した理由、または顧客の要件を満たさなかった理由を表示する。不良モードは、Agile 管理者によって定義されたリストから選択します。不良モードのリストは、アイテムのサブクラスごとに定義できます。たとえば、バッテリーの不良モードには「充電切れ」、電源コードの不良モードとしては「ヒューズが飛んだ」などを定義します。
対象となった数量	手動	品質問題の対象となったアイテムの数
修正リビジョン	リビジョンで問題が修正されるときに自動入力手動で変更も可	問題が修正されたアイテムのリビジョン。関連 ECO (設計変更) のリリース時に自動的に入力される。また、手動で更新することも可能
最新の変更	リビジョンで問題が修正されるときに自動入力	この PSR の対象アイテムに関連する、最新のリリース済み変更の番号

NCR 対象アイテムの属性

NCR の属性と操作は、次に説明する [対象アイテム] タブの一部のフィールドを除いて、問題レポートと同じです。

次の表では、問題レポートで 사용되는フィールドに加えて使用されるフィールドについて説明します。これらのフィールドは、1 つ、または複数製品の期限付き設計変更に関する追加情報を提供します。これは、サプライヤから出荷されたマテリアルを品質保証部門で検査するためのプロセスの一部となります。


フィールド	完了済み	内容
適合含有基準	手動	マテリアルの設計仕様への準拠に関する情報
シリアル/ロット番号	手動	アイテムのシリアル番号またはロット番号 問題が見つかった場合、欠陥のあるバッチのシリアル番号またはロット番号 (製品のバッチに固有の識別子と同じ番号) を入力する

フィールド	完了済み	内容
合計数量予想	手動	<p>問題があると予想されるアイテムの合計数量</p> <p>サンプル検査に基づき出荷に問題があると判断された場合、欠陥が予想されるユニットの総数を入力する。</p> <p>受け取った 500 ユニットのロットから 20 ユニットを検査し、5 ユニットに欠陥が発見された場合の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 合計数量サスペクト 500 確認済み数量 20 対象となった数量 5
確認済み数量	手動	確認済みアイテムの数量
対象となった数量	手動	問題があったアイテムの実数
暫定処置	手動	<p>マテリアルに対してとられる緊急に行われる暫定処置</p> <p>たとえば、すべてのマテリアルの廃棄、サプライヤへの返却、不良バッチのマーク付けなど</p>
RMA 番号	手動	商品返品の確認欠陥のあるマテリアルの返却を許可するためにサプライヤが発行する番号。通常は用紙に記入される
マテリアル合格日	手動	含有基準に適合したマテリアルをサプライヤが送付できる予定日

対象アイテムを編集する

適切な権限があれば、[対象アイテム] タブのアイテムを編集または削除することができます。

Java クライアントで対象アイテムを編集するには

1. PSR を開き、[対象アイテム] タブをクリックします。
2. 編集するアイテム行を選択し、[対象アイテムの編集]  をクリックします。[対象アイテムの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 編集可能フィールドでテキストを入力するか、ドロップダウン リストから値を選択します。
4. 完了したら、[OK] をクリックします。

このタブのフィールドの詳細は、「[PSR の \[対象アイテム\] タブ](#)」を参照してください (17 ページの「PSR の [対象アイテム] タブ」)。


注意 [修正リビジョン] を手動で更新すると、そのリビジョン変更に関連する ECO が [最近の変更] フィールドに自動的に入力されます。[修正リビジョン] のドロップダウン リストには、このアイテムのすべてのリビジョンが含まれます。

たとえば、次の場合に [修正リビジョン] フィールドを手動で更新することができます。

- 品質問題が提出され、既知の修正がリリースまたは実施されている場合。この場合、[修正リビジョン] フィールドを更新するだけで、この問題が対処済みでありその特定リビジョンで修正されていることを反映できます。

- 親を持たず、そして変更や QCR と関連付けられていない PSR を更新します。

Web クライアントで対象アイテムを編集するには

- PSR を開き、[対象アイテム] タブをクリックします。
- 編集するアイテム行を選択して  [編集] ボタンをクリックします。
- 編集可能フィールドでテキストを入力するか、ドロップダウン リストから値を選択します。
- 編集が完了したら、[保存] をクリックします。

このタブのフィールドの詳細は、「[PSR の \[対象アイテム\] タブ](#)」を参照してください (17 ページの「PSR の [対象アイテム] タブ」)。

注意 [修正リビジョン] を手動で更新すると、そのリビジョン変更に関連する ECO が [最近の変更] フィールドに自動的に入力されます。[修正リビジョン] のドロップダウン リストには、このアイテムのすべてのリビジョンが含まれます。



たとえば、次の場合に [修正リビジョン] フィールドを手動で更新することができます。

- 品質問題が提出され、既知の修正がリリースまたは実施されている場合。この場合、[修正リビジョン] フィールドを更新するだけで、この問題が対処済みでありその特定リビジョンで修正されていることを反映できます。
- 親を持たず、そして変更や QCR と関連付けられていない PSR を更新します。


対象アイテムを追加する

PSR の [対象アイテム] タブにアイテムを追加できます。



Java クライアントで対象アイテムを PSR に追加するには

- PSR を開き、[対象アイテム] タブをクリックします。
- [追加] ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、次のオプションの 1 つを選択します。
 -  作成 [タイプ]- ドロップ ダウン リストからタイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号と説明を入力してください。[OK] をクリックします。
 -  検索 - 1 つ以上の既存アイテムを検索します。


[対象アイテムの追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。詳細検索を設定したり、保存された検索やパラメータ検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。異なるアイテムのリビジョンを選択したり、他のフィールドを編集する場合は、[追加後に行を編集] ボックスが選択されていることを確認してください。検索結果でアイテムをクリックし、[OK] をクリックします。[検索された対象アイテム] リストのすべてのアイテムは、[対象アイテム] テーブルに追加されます。

-  既存の番号の入力 - 1 つ以上の番号をそれぞれの行に入力し、[追加] をクリックします。ドロップダウン リストからオプションを選択せずに [追加] ボタンを一度クリックすると、[既存の番号の入力] ダイアログ ボックスが表示されます。

Web クライアントで対象アイテムを PSR に追加するには

1. PSR を開き、[対象アイテム] タブをクリックします。
2. [追加] ドロップダウン メニュー ボタンをクリックし、次のオプションの 1 つを選択します。
 -  新規作成 -[タイプ] ドロップダウン メニューから、タイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号と説明を入力してください。[OK] をクリックします。
 -  検索 - 1 つ以上の既存アイテムを検索します。


[対象アイテムの追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。詳細検索を設定したり、保存された検索やパラメータ検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。異なるアイテム リビジョンを選択したり、他のフィールドを編集する場合は、[追加後に行を編集] ボックスが選択されていることを確認してください。検索結果でアイテムをクリックし、[OK] をクリックします。[検索された対象アイテム] リストのすべてのアイテムは、[対象アイテム] テーブルに追加されます。

-  既知の番号の入力 - 1 つ以上の番号をそれぞれの行に入力し、[追加] をクリックします。ドロップダウン リストからオプションを選択せずに [追加] ボタンを一度クリックすると、[既知の番号の入力] ダイアログ ボックスが表示されます。

注意 [PSR に対する多数のアイテム] という Agile PLM スマートルールが、複数のアイテムを PSR の [対象アイテム] タブに追加するかどうかを決定します。[PSR に対する多数のアイテム] が「可」と設定されている場合、1 つ以上のアイテムを PSR に追加することができます。それ以外の場合、PSR に追加できるのは 1 つのアイテム (1 行) のみに制限されます。


対象アイテムを削除する

Java クライアントで対象アイテムを削除するには

1. PSR を開き、[対象アイテム] タブをクリックします。
2. 1 つ、または複数行をクリックし、削除したいアイテムを選択します。
3.  [削除] ボタンをクリックします。

確認後、選択したアイテムが [対象アイテム] テーブルから削除されます。

Web クライアントで対象アイテムを削除するには

1. 作業する PSR を開き、[対象アイテム] タブをクリックします。
2. 削除するアイテムの行を 1 つ以上選択します。
3.  [削除] ボタンをクリックします。

確認後、選択したアイテムが [対象アイテム] テーブルから削除されます。

事例

以下の事例の [修正リビジョン] フィールドと [最近の変更] フィールドは、様々な場合に更新されます。

事例 1

欠陥アセンブリのリビジョン C で問題レポートが提出されました。欠陥アセンブリを調査するため、是正措置が開始されました。欠陥コンポーネントの交換を指定する期限付き設計変更がすぐに作成されます。この場

合、期限付き設計変更の番号で [最近の変更] フィールドが更新されます。

根本原因の特定後、アセンブリの欠陥部品を恒久的に交換する設計変更が作成され、リビジョン D に移行します。

問題レポートで、[修正リビジョン] フィールドはリビジョン D を表示し、[最新の変更] フィールドは ECO 番号を表示します。

事例 2


現場で多くの不具合が発生し、使用不可能とみなされた重要な装置について問題レポートが提出されました。問題の重大度を特定するため、緊急出荷停止の措置がとられました。この場合、問題レポートの [最近の変更] フィールドが出荷停止番号で更新されます。

後で恒久的な変更が ECO によって実施された場合、[修正リビジョン] フィールドと [最近の変更] フィールドが ECO の詳細に応じて更新されます。

単独の PSR では、[最近の変更] フィールドと [修正リビジョン] フィールド更新のために次のケースが適用されます。


- PSR が QCR に集約されない場合、[修正リビジョン] フィールドで手動による更新が可能です。これは、[最新の変更] のフィールドに自動入力されます。
- [修正リビジョン] フィールドを手動で上書きし、後で変更をこのアイテムに関連付ける場合でも、[修正リビジョン] フィールドと [最近の変更] フィールドの自動入力が行われます。
- たとえば、あるアイテムの [修正リビジョン] フィールドは「A」で、[最新の更新] フィールドは「ECO10」であるとしめます。別の変更がリリースされると、このアイテムの [最新の変更] フィールドは ECO20 に更新されます。ここで、[修正リビジョン] フィールドを手動で「A」と選択すると、[最終の変更] は自動的に ECO 10 に更新されます。
- [修正リビジョン] は、[見つかったリビジョン] よりも後でなければなりません。[見つかったリビジョン] よりも早い [修正リビジョン] を指定すると、エラー メッセージが表示されます。
- 変更をリリースした結果として [修正リビジョン] にデータが入力される場合、変更を未リリースにすると、[修正リビジョン] の値は角括弧で囲まれます。

[関連 PSR] タブ

[関連 PSR] タブには、現在の PSR に集約されるすべての PSR のリストが表示されます。現在の PSR は親 PSR とみなされます。[関連 PSR] タブのアイコン  は、関連 PSR が含まれることを示します。PSR を作成すると、関連 PSR に関する情報を編集することができます。また、関連 PSR をこの PSR (親) に集約できます。

たとえば、複数の顧客が似たような問題を報告しており、各顧客の問題に対して問題レポートがすでに作成された想定します。品質チームは、異なる顧客からの問題にはすべて関連性があり、1 つの解決策で解決可能であると判断しました。解決策を提示して関連 PSR をすべて解決するために、品質チームは 1 つの PSR (親) を作成し、すべての関連 PSR を親 PSR に追加 (集約) します。

[関連 PSR] テーブルには、デフォルトで次の列が含まれています。

フィールド	完了済み	内容
適合した PSR 条件	PSR イベント条件が満たされた場合、自動入力	<p>PSR イベントが発生した (親 PSR が PSR イベントについて選択されたステータスに達した) ことを示す</p> <p>親 PSR が、[PSR イベント] フィールドで指定されたステータスに達すると、関連 PSR ステータスが、[PSR 結果] フィールドで指定されたステータスに自動的に移行し、所定の条件を満たす。条件を満たすと、シンボル  を表示する</p>
PSR イベント	手動	<p>自動ワークフロー イベントのきっかけとなる親 PSR のステータス</p> <p>ドロップ ダウン リストから利用可能なステータスを選択すること。PSR にワークフローが割り当てられている場合にのみステータスを指定可能。このイベントの発生は、PSR が指定のステータスに達したことを意味する。</p> <p>PSR イベントのデフォルトは [終了] ステータスに設定されている。品質分析権限がある場合、Java クライアントでデフォルト値を別のステータスに設定可能。詳細は、「[関係] タブ」を参照してください。</p> <p>注意: [PSR イベント] のステータスを指定できるのは、[カバー ページ] タブで親と子の両方のオブジェクトにワークフローが割り当てられている場合のみ</p>
PSR 結果	手動	<p>イベント ステータスに達した時点で、関連 PSR が昇格するステータス。ドロップ ダウン リストから利用可能なステータスを選択すること。PSR にワークフローが割り当てられている場合にのみステータスを指定可能。</p> <p>親 PSR が [PSR イベント] ステータスに達すると、関連 PSR のステータスは、このフィールドで指定した結果ステータスに自動的に移行する。</p> <p>PSR 結果のデフォルトは [終了] ステータスに設定されている。品質分析権限がある場合、Java クライアントでデフォルト値を別のステータスに設定可能。詳細は、「[関係] タブ」を参照してください。</p> <p>注意: [PSR 結果] のステータスを指定できるのは、[カバー ページ] タブで親と子の両方のオブジェクトにワークフローが割り当てられている場合のみ</p>
PSR タイプ	自動	関連 PSR のタイプ

フィールド	完了済み	内容
PSR 番号	関連 PSR の追加時に手動で入力	関連 PSR の番号
PSR カテゴリ	自動	関連 PSR の品質問題カテゴリ
PSR 説明	自動	関連 PSR の説明
PSR 顧客	自動	関連 PSR に関する顧客
PSR サプライヤ	自動	関連 PSR に関するサプライヤ
PSR 重大度	自動	関連 PSR の重大度。Agile PLM 管理者が定義する
PSR 対応策	自動	この PSR が解決された方法
PSR 予定解決日	自動	関連 PSR の問題の予定解決日
PSR 品質分析者	自動	関連 PSR に割り当てられた品質分析者 デフォルトの品質分析者に通知するようにワークフローが定義されている場合、このフィールドの部署またはユーザーは PSR に関する通知を受信する
PSR ワークフロー	自動	品質追跡プロセスに従ってこの PSR を処理するために使用されるワークフローの名前
PSR ステータス	自動	関連 PSR ワークフロー ステータス。ワークフローが選択されていない場合、このフィールドは [未割当]
PSR 作成者	作成時に自動入力	デフォルトの PSR 作成者
PSR 作成日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR が作成された日時
PSR 提出日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR が提出された日付
PSR リリース日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR がリリースされた日付
PSR 最終完成日	通常は作成時に自動入力	リリース済み PSR が完成した日付
PSR 総数	PSR が [関連 PSR] タブに追加されるときに自動入力	このフィールドは、親 PSR 番号とともに自動入力される

関連 PSR を追加する

関連 PSR を親 PSR に追加することができます。

この親 PSR に関連 PSR を追加した後、[関連 PSR] タブの各 PSR の [PSR 総数] 列には、親 PSR の数が表示されます。子 PSR の [カバー ページ] では、[PSR 総数] フィールドにこの親 PSR の数が自動的に入力されます。

関連 PSR を編集する

適切な権限があれば、関連 PSR を編集または削除することができます。

Java クライアントで関連 PSR を編集するには

1. PSR を開き、[関連 PSR] タブをクリックします。
2. 編集する PSR 行を選択して [編集] ボタンをクリックします。
3. 編集可能フィールドでテキストを入力するか、ドロップダウン リストを使用します。
4. 完了したら、[OK] をクリックします。

[PSR イベント] ドロップダウン リストに、親 PSR のステータスが表示されます。親および関連 PSR のステータスを選択し、親 PSR が [PSR イベント] で指定されたステータスに達したときに、関連 PSR が [PSR 結果] フィールドのステータスに移行するよう設定できます。たとえば、[PSR イベント] フィールドを [終了] に設定し、[PSR 結果] フィールドを [終了] に設定すると、親 PSR が [終了] ステータスに移行した際に、関連 (子) PSR も自動的に [終了] ステータスへと移行します。

注意 デフォルトでは、[PSR イベント] と [PSR 結果] フィールドに [終了] ステータスが表示されますが、ドロップダウン リストから適切なステータスを選択することもできます。親 PSR または子 PSR のいずれかにワークフローが割り当てられていない場合、[PSR イベント] フィールドと [PSR 結果] ドロップダウン リストは空白になります。

Web クライアントで関連 PSR を編集するには



1. PSR を開き、[関連 PSR] タブをクリックします。
2. 編集する PSR 行を 1 つ以上選択し、[編集] をクリックします。
3. 完了したら、[OK] をクリックします。

[PSR イベント] ドロップダウン リストに、親 PSR のステータスが表示されます。親および関連 PSR のステータスを選択し、親 PSR が [PSR イベント] で指定されたステータスに達したときに、関連 PSR が [PSR 結果] フィールドのステータスに移行するよう設定できます。たとえば、[PSR イベント] フィールドを [終了] に設定し、[PSR 結果] フィールドを [終了] に設定すると、親 PSR が [終了] ステータスに移行した際に、関連 (子) PSR も自動的に [終了] ステータスへと移行します。

注意 デフォルトでは、[PSR イベント] と [PSR 結果] フィールドに [終了] ステータスが表示されますが、ドロップダウン リストから適切なステータスを選択することもできます。親 PSR または子 PSR のいずれかにワークフローが割り当てられていない場合、[PSR イベント] フィールドと [PSR 結果] ドロップダウン リストは空白になります。

関連 PSR を親 PSR に追加する



Java クライアントで関連 PSR を親 PSR に追加するには

1. PSR を開き、[関連 PSR] タブをクリックします。
2. [追加] ドロップダウン メニューをクリックし、次のオプションの 1 つを選択します。
 -  作成 [タイプ]- ドロップ ダウン リストからタイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号を入力してください。[OK] をクリックします。
 -  検索 - 1 つ以上の既存の PSR を検索します。[関連 PSR の追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。

詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いた PSR (ショートカット) を選択することもできます。関連 PSR の追加後にフィールドを編集する場合は、[追加後に行を編集] ボックスが選択されていることを確認してください。検索結果で目的の PSR をクリックし、[OK] をクリックします。[選択した関連 PSR] リストの PSR がすべて [関連 PSR] テーブルに追加されます。

注意 ドロップダウン リストから選択せずに [追加] アイコンをクリックすると、[関連 PSR の追加] (検索) ダイアログ ボックスが表示されます。


Web クライアントで関連 PSR を親 PSR に追加するには

1. PSR を開き、[関連 PSR] タブをクリックします。
2. [追加] ドロップダウン メニューをクリックし、次のオプションの 1 つを選択します。
 -  新規作成 - [タイプ] ドロップダウン メニューから、タイプを選択します。適切な場合は、オブジェクト番号を入力できます。[OK] をクリックします。
 -  検索 - 1 つ以上の既存の PSR を検索します。[関連 PSR の追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いた PSR (ショートカット) を選択することもできます。関連 PSR の追加後にフィールドを編集する場合は、[追加後に行を編集] ボックスが選択されていることを確認してください。検索結果で目的の PSR をクリックし、[OK] をクリックします。[選択した関連 PSR] リストの PSR がすべて [関連 PSR] テーブルに追加されます。

注意 ドロップダウン リストから選択せずに [追加] アイコンをクリックすると、[関連 PSR の追加] (検索) ダイアログ ボックスが表示されます。


関連 PSR を削除する

Java クライアントで関連 PSR を削除するには

1. PSR を開き、[関連 PSR] タブをクリックします。
2. 行をクリックし、削除する関連 PSR を選択します。
3.  [削除] ボタンをクリックします。

確認後、選択した PSR が [関連 PSR] タブから削除されます。子 PSR の [カバー ページ] の [PSR 総数] フィールドから、多くの親 PSR が削除されます。

Web クライアントで関連 PSR を削除するには

1. 作業する PSR を開き、[関連 PSR] タブをクリックします。
2. 削除する関連 PSR を選択します。
3.  [削除] ボタンをクリックします。

確認後、選択した PSR が [関連 PSR] タブから削除されます。子 PSR の [カバー ページ] の [PSR 総数] フィールドから、多くの親 PSR が削除されます。

[関係] タブ

[関係] タブを使用すると、現在の PSR、他の送信可能なオブジェクト、およびライフサイクル オブジェクトの間に関係と依存関係を作成できます。

[関係] タブでは、次の処理が可能です。

- プロジェクトまたはタスクで、複数のオブジェクトを成果物として追加できます。
- 複数の Agile オブジェクトの [関係] タブで、プロジェクト/タスクとの関係を追加、編集および表示できます。
- 関係オブジェクトには、関連付けられるルールがあります。

関係 - クラス テーブル

次の表は、すべての Agile オブジェクト、および関係と参照のために何を有効にする必要があるかを示しています。

- 存在 - その機能がクラスとサブクラスに存在することを示します。

[関係] (ルールあり) 列

- はい - その機能がクラスとサブクラスに追加されることを示します。
- いいえ - その機能がサポートされないことを示します。

[イベント][結果] 列

- ワークフロー - そのクラス オブジェクトのイベント/結果が、そのオブジェクトのワークフローのステータスに基づくことを示します。
- ライフサイクル - そのクラス オブジェクトのイベント/結果が、そのクラスのライフサイクルのステータスに基づくことを示します。

Agile 基本 クラス	Agile クラス	イベント/結果	関係 (ルールあり)	参照 - 関係 (ルールなし)	変更管理に 基づくライフ サイクル
変更	設計変更	ワークフロー	存在	存在	NA
	設計変更依頼	ワークフロー	存在	存在	NA
	期限付き設計変更クラス	ワークフロー	存在	存在	NA
	製造元依頼	ワークフロー	存在	存在	NA
	価格変更	ワークフロー	存在	存在	NA
	拠点毎変更	ワークフロー	存在	存在	NA
	出荷停止	ワークフロー	存在	存在	NA
顧客	顧客	ライフサイクル	はい	はい	いいえ

Agile 基本 クラス	Agile クラス	イベント/結果	関係 (ルールあり)	参照 - 関係 (ルールなし)	変更管理に 基づくライフ サイクル
デクラレー ション	均質材のデクラ レーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	IPC 1752-1 デク ラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	IPC 1752-2 デク ラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	JGPSSI デクラ レーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	部品のデクラ レーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	サブスタンスの デクラレーショ ン	ワークフロー	存在	存在	NA
	適合のサプライ ヤ デクラレー ション	ワークフロー	存在	存在	NA
ファイル フォルダ	ファイル フォルダ	ライフサイクル	存在	存在	いいえ
アイテム	ドキュメント ク ラス	ライフサイクル	はい	はい	はい
	部品	ライフサイクル	はい	はい	はい
製造元部品	製造元部品	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
製造元	製造元	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
パッケージ	パッケージ	ワークフロー	はい	はい	NA
部品グループ	部品グループ	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
価格	公表プロセス	ライフサイクル	はい	はい	はい
	見積履歴	ライフサイクル	はい	はい	はい
PSR	不具合レポート	ワークフロー	存在	存在	NA
	PR (問題レポー ト)	ワークフロー	存在	存在	NA
プログラム	アクティビティ	ワークフロー	存在	存在	NA
	ゲート	ワークフロー	存在	存在	NA
QCR	検証	ワークフロー	存在	存在	NA
	是正・予防処置	ワークフロー	存在	存在	NA

Agile 基本 クラス	Agile クラス	イベント/結果	関係 (ルールあり)	参照 - 関係 (ルールなし)	変更管理に 基づくライフ サイクル
見積依頼	見積依頼	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
見積依頼回答	見積依頼回答	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
拠点	拠点	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
ソーシング プロジェクト	ソーシング プロジェクト	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
含有基準	含有基準	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
サブスタンス	マテリアル	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
	サブパート	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
	サブスタンス グループ	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
サプライヤ	サプライヤ	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
転送依頼	自動転送	ワークフロー	はい	はい	NA
	コンテンツ転送	ワークフロー	はい	はい	NA
ユーザー グループ	ユーザー グループ	なし	いいえ	はい	NA
ユーザー	ユーザー	なし	いいえ	はい	NA
アクション アイテム	アクション アイテム	ステータス属性	いいえ	いいえ	NA
ディスカッ ション	ディスカッション	ステータス属性	いいえ	はい	NA
レポート	カスタム レポート	なし	いいえ	いいえ	NA
	外部レポート	なし	いいえ	いいえ	NA
	標準レポート	なし	いいえ	いいえ	NA


[関係] タブの属性

- オブジェクトが成果物としてプロジェクトに追加されると、プロジェクトがそのオブジェクトの [関係] タブに追加されます。これら 2 つのオブジェクト間に関係ルールを定義でき、ルールを両方のオブジェクトから表示できます。
- オブジェクト 1 をオブジェクト 2 に対する関係として追加すると、逆転関係が作成され、これによりオブジェクト 2 がオブジェクト 1 の [関係] タブに表示されます。
- 成果物であるオブジェクトの [関係] タブに PPM オブジェクトを追加できます。その結果、このオブジェクトが PPM オブジェクトの成果物として [成果物] タブに表示されます。
- 2 つのオブジェクト間にデフォルトの関係ルールはありません。
- リビジョンのあるオブジェクトに関係を追加する場合
 - ルールが保留中の場合にのみ、部品またはドキュメントの名前フィールドにオブジェクト名または番号が表示されます。オブジェクト名または番号をクリックします。編集可能フィールドでテキストを入力するか、ドロップダウン リストを使用します。リビジョンのドロップダウンに最新のリビジョンが表示されます。
 - ルールに適合する場合 (たとえば、イベントのライフサイクルが発生した場合)、オブジェクトのリビジョンが名前フィールドに表示されます。たとえば、きっかけとなるイベントが、ライフサイクルが製造に移行する時点の場合、製造フェーズで発生した最初のリビジョンがここに表示されます。
 - 名前フィールドの値はハイパーリンクが設定され、リビジョンのカバー ページにリンクされます。
 - Java クライアントでルールを追加、編集または削除するには、それぞれ [ルールの追加]、[ルールの編集] または [ルールの削除] ボタンをクリックします。
 - Web クライアントでは、ルールはテーブルに表示されているため、[プレビュー] ウィンドウから編集できます。
 - 条件を満たす場合、フォルダ バージョンに関連する添付ファイルが、そのフォルダ バージョンとともに表示されます。
 - デフォルトでは、[関係] テーブルはアルファベット順で、名前属性により昇順にソートされます。

各オブジェクトの名前フィールドは次のように表示されます。

オブジェクト	名前フィールドの表示
アイテム	<アイテム番号>リビジョン:<リビジョン>
アクティビティおよびゲート	アクティビティ/ゲート (ルート アクティビティ)
顧客	顧客名 (顧客番号)
サプライヤ	サプライヤ名 (サプライヤ番号) またはサプライヤ表示名
製造元部品	製造元番号 (製造元名)
ファイル フォルダ	ファイル名 1.拡張子、ファイル名 2.拡張子... (ファイル フォルダにあるすべてのファイルを表示) バージョン:A

[関係] テーブルには、デフォルトで次の列が含まれています。

フィールド	完了	内容
適合した条件のアイコン	追加されたオブジェクト関係ルールが条件を満たされた場合、自動入力	追加されたオブジェクトが、指定ステータスを取得した場合に示される。条件を満たすと、適合した条件シンボル  を表示する
タイプ (画像)	自動	追加されたオブジェクトのタイプ
名前	自動	追加されたオブジェクトの名前/番号。アイテム (部品、ドキュメント)、変更、製造元、製造元部品、顧客、ソーシング プロジェクト、RFQ、サプライヤ、PE 関連オブジェクトを追加可能
説明	自動	追加されたオブジェクトの説明
現在のステータス	オブジェクト追加時に自動入力	関連オブジェクトの現在のステータス
ルール	ルール追加時に自動入力	オブジェクトに適用されている関係ルールを示す。 注意: ルールを指定できるのは、[カバー ページ] でオブジェクトにワークフローが割り当てられている場合のみ
タイプ	自動	追加されたオブジェクトのタイプ
関係タイプ	自動	関係タイプを示す

関係ルール

- ライフサイクル オブジェクトからワークフロー オブジェクトへのみルールを定義できます。

ライフサイクル オブジェクトからワークフロー オブジェクトに関係を追加すると、ライフサイクルのステータスがワークフロー オブジェクトのステータスに影響します。

たとえば、製品サービス依頼 (ワークフロー オブジェクト) PR00061 から (ワークフロー オブジェクト) 設計変更に関係ルールが定義されているとします。このルールでは、PR00061 のステータスが [リリース済み] になったときに設計変更を [リリース済み] にすることが定義されています。元オブジェクト (PR00061) と先オブジェクト (設計変更) の関係はルールで決定されているため、ルールが影響を与えるのはワークフロー オブジェクトのみです。

ワークフロー オブジェクトからライフサイクル オブジェクトに関係を追加すると、ライフサイクル オブジェクトのステータスはワークフロー オブジェクトのステータスに影響し、逆方向には影響しません。

- ワークフロー オブジェクトから関係を追加すると、他のワークフロー オブジェクトに両方向で関係ルールを定義できます。

たとえば、QCR QCR12345 と PSR PR55768 の 2 つのワークフロー オブジェクト間の関係では、[場合] ドロップダウンに QCR12345 と PR55768 の 2 つのオブジェクトが表示され、[設定] ドロップダウンにも同じ 2 つのオブジェクトが表示されます。[場合] と [設定] の両方で同じオブジェクトを選択することはできません。[場合] リストからオブジェクトを選択すると、[設定] フィールドは別のオブジェクトでアップグレードされます。


関係は両方のオブジェクトから表示可能で、表示されるルールは同じにする必要があります。

- 2 つのライフサイクル オブジェクト間に関係ルールを定義することはできません。

関係ルールはライフサイクル オブジェクトとワークフロー オブジェクト間にのみ定義可能で、2 つのライフサイクル オブジェクト間に定義することはできません。

[関係] テーブルにオブジェクトを追加する

Java クライアントで [関係] テーブルにオブジェクトを追加するには

1. PSR を開いて [関係] タブをクリックします。
2. [追加]  ドロップダウン メニューをクリックし、次のオプションの 1 つを選択します。
 - 作成 [タイプ]- ドロップ ダウン リストからタイプを選択します。適切な場合は、オブジェクト番号も入力できます。
 - 検索 - 1 つ以上の既存のオブジェクトを検索します。

[関係の追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。


さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたオブジェクト (ショートカット) を選択することもできます。関連オブジェクトの追加後にフィールドを編集する場合は、[追加後に行を編集] オプションが選択されていることを確認してください。

3. 検索結果でオブジェクトを選択します。
4. [OK] をクリックします。

[選択した関連オブジェクト] リストのオブジェクトが、[関係] テーブルに追加されます。

注意 オブジェクトを PSR の [関係] テーブルに追加すると、PSR がオブジェクトの [関係] タブに追加されます。

Web クライアントで [関係] テーブルにオブジェクトを追加するには

1. PSR を開いて [関係] タブをクリックします。
2. [追加]  ドロップダウン メニューを選択し、次のオプションの 1 つを選択します。
 - 新規作成 - ダイアログ ボックスが表示され、ここで [タイプ] ドロップダウン リストから値またはオブジェクトを選択できます。適切な場合は、オブジェクト番号も入力できます。
 - 検索 - [検索] ダイアログ ボックスが表示され、ここから 1 つ以上の既存のオブジェクトを検索できます。

[関係の追加] ダイアログ ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、[検索] をクリックします。

パラメータ検索や詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたオブジェクト (ショートカット) を選択することもできます。関連オブジェクトの追加後にフィールドを編集する場合は、[追加後に行を編集] オプションが選択されていることを確認してください。

3. 検索結果でオブジェクトを選択して [選択項目の追加] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

選択したオブジェクトが [関係] テーブルに追加されます。

注意 オブジェクトを PSR の [関係] テーブルに追加すると、PSR がオブジェクトの [関係] タブに追加されます。

[関係] テーブルでオブジェクトを編集および削除する

問題レポートまたは不具合レポートの作成時に入力しなかった情報は、作成後でもレポートを編集して追加することができます。また、PSR 作成後に変更した情報も編集することができます。

[関係] テーブルでオブジェクトを編集するには

1. PSR を開いて [関係] タブをクリックします。
2. 編集するオブジェクトを選択します。
3. [関係の編集] アイコンをクリックして、該当するフィールドを編集します。
4. [保存] をクリックします。

[カバー ページ] にオブジェクトの編集済バージョンが表示されます。

[関係] テーブルでオブジェクトを削除するには

1. PSR を開いて [関係] タブをクリックします。
2. 削除するオブジェクトを選択します。
3. [関係の削除] をクリックします。

確認後、選択されたオブジェクトが削除されます。

フィルタ

フィルタを使用すると、PSR の [関係] タブで、含まれるルールによってオブジェクトを絞り込むことができます。[フィルタの表示] ドロップダウン オプションを使用して、設定する属性で関係をフィルタリングできます。デフォルトでは、[フィルタの表示] オプションは 4 つの値で構成されています。

□ すべての関係

このフィルタでは、テーブルのすべての関係オブジェクトをフィルタリングできます。

□ 完了

このフィルタでは、ルール条件を満たすオブジェクトすべてをフィルタリングできます。

□ 保留中

このフィルタでは、ルール条件を満たさないオブジェクトをフィルタリングできます。

□ ルールが指定されていません

このフィルタでは、ルールが指定されていないオブジェクトをフィルタリングできます。

さらに関係をフィルタリングするために、追加のフィルタ属性が用意されています。

[フィルタの表示]  アイコンをクリックして、次の属性でフィルタリングできます。

- 適合した条件 - 条件が適合する箇所で関係をフィルタリングします。
- 名前 - 名前によって関係をフィルタリングします。

- 説明 - 説明によって関係をフィルタリングします。
- ルール - ルールによって関係をフィルタリングします。
- タイプ - タイプによって関係をフィルタリングします。

次の条件を使用して、[適合した条件] 属性でさらにフィルタリングできます。

- [はい] の場合、チェックされた行が戻されます。
- [いいえ] の場合、条件が適合しない関係行のみが戻されます。
- [ヌル] の場合、ルールがない行のみが戻されます (参照行)。
- [ヌルではない] の場合、すべての関係行が戻されます。

[プレビュー] ウィンドウ

[関係] テーブルでオブジェクトに関係を追加すると、関係の詳細がウィンドウ下部の [プレビュー] ウィンドウに表示されます。

[プレビュー] ウィンドウには、属性および関係オブジェクトで実行可能なアクションも表示されます。

名前フィールドはハイパーリンクであり、[プレビュー] ウィンドウにオブジェクトに関する情報が表示されます。リビジョン フィールドには、オブジェクトのすべてのリビジョンを示すドロップダウンが表示されます。リビジョンを選択すると、[プレビュー] ウィンドウにそのリビジョンの添付ファイルなどの詳細が表示されます。

関係にルールを追加することができます。

1. [プレビュー] ウィンドウで [ルールの追加] リンクをクリックします。[関係ルール] ウィンドウが表示されます。
2. ルールを指定して [保存] をクリックします。
 - [ルールの編集] リンクをクリックしてルールを編集します。
 - [ルールの削除] リンクをクリックしてルールを削除します。

オブジェクトの追加、削除、表示などのアクションは、[プレビュー] ウィンドウからも実行できます。

このため、[プレビュー] ウィンドウで関係オブジェクトに添付ファイル、コンテンツ、対象アイテム、価格変更および変更の作成を追加できます。

次の処理も実行できます。

- ファイルの追加 - 名前と説明によってファイルを追加できます。
- URL の追加 - 名前と説明 (インターネット アドレス) によって URL を追加できます。
- 検索で追加 - 既存のファイルを検索します。簡易検索を実行する場合は、値を入力して [検索] をクリックします。詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、最近開いたアイテム (ショートカット) を選択することもできます。添付ファイル コンテンツを検索することもできます。

PSR の [ワークフロー] タブ

[ワークフロー] タブには、[カバー ページ] で選択したワークフローのフローチャートが表示されます。Agile PLM ワークフローとは、送信可能なオブジェクトが従うステータスの流れで、品質管理プロセス内の様々なステータスで構成されています。オレンジの背景色 (Web クライアント) または黄色の背景色 (Java クライアント) が、現在のステータスです。[サインオフ履歴] テーブルには、PSR の過去のワークフローとサインオフの情報が表示されます。

たとえば、予備調査のために社内で PSR を送付したり、管理者に送付して、是正処置が必要かどうかの確認を依頼することができます。また、詳細情報の提供を担当するサポート コール センターやフィールド サービス担当者に送付したり、実施した修正の最終承認を求めて顧客に送付したり、問題への対応を求めてサプライヤに送付することも可能です。

注意 製品サービス依頼のワークフローは、送信可能なオブジェクトと同様に働きます。

PSR の [添付ファイル] タブ

Agile PLM オブジェクトの [添付ファイル] タブからファイルと URL を参照できます。このようなファイルや URL は、一般に添付ファイルと呼ばれます。ファイルをオブジェクトに添付した場合、添付ファイルと URL は追跡および検索可能です。自動的に作成されるファイル フォルダというオブジェクト (ファイル フォルダ クラスからの参照情報のオブジェクト) にもそのファイルが追加されます。

実際の添付ファイルは、Agile File Manager (ファイル格納庫とも呼ばれます) に保存されます。添付ファイルには、オブジェクトやプロセスを説明する情報が含まれます。たとえば、部品やサブアセンブリを説明する含有基準であれば、以下のような添付ファイルを持つ可能性があります。

- 表示可能なフォーマットの図面ファイル (CAD 図面など) またはスキャンした画像ファイル
- ドキュメント、表示不可能なファイル、圧縮 (ZIP) ファイルなど

添付ファイルについては、表示、コピー、削除、印刷を行うことができます。また、添付ファイルのチェックインとチェックアウトも可能です。ただし、実際にはファイル フォルダ オブジェクトのチェックインとチェックアウトを行うことになります。

PSR を提出、送付する

[次のステータス] ボタンを使用して、PSR を提出できます。このプロセスは、その他の送信可能なオブジェクトの提出や送付の場合と同じです。PSR を別のステータスを切り替える前に、処理を妨げるエラーがないか必ず検証してください。

PSR のデフォルトのワークフローの詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

PSR を提出すると、品質分析者に電子メールで通知されます。品質分析者は、ホーム ページのワークフロールーティング領域または品質検索フォルダで検索を実行して、最近提出された PSR を検索することもできます。

品質変更依頼を使用する



扱うトピックは次のとおりです。

▪ QCR を作成する	37
▪ QCR の [カバー ページ] タブ	41
▪ QCR の [対象アイテム] タブ	43
▪ QCR の [関係] タブ	43
▪ QCR の [ワークフロー] タブ	44
▪ QCR の [添付ファイル] タブ	44
▪ QCR を提出、送付する	44

QCR を作成する


QCR オブジェクトを作成するには適切な権限が必要です。QCR オブジェクトは、他の Agile PLM オブジェクトと同様に作成されます。[新規オブジェクト] ボタンまたは [名前を付けて保存] 機能を使用できます。

Java クライアントで QCR を作成するには

1. [新規オブジェクト]  ボタンをクリックします。[新規オブジェクト] ダイアログ ボックスが開きます。
2. [タイプ] リストで、[検証] または [是正・予防処置] を選択します。
3. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
4. [OK] をクリックします。

Agile Java クライアントが QCR オブジェクトを作成し、QCR (検証または是正・予防処置 (CAPA)) が [カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。

Web クライアントで QCR を作成するには

1. メイン ツールバーから [作成 | 品質変更依頼 | 検証] または [是正・予防処置] を選択します。[品質作成依頼の作成] ウィザードが表示されます。
2. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
3. [次へ] をクリックします。[カバー ページの情報を入力] ページが表示されます。
4. 必要な情報を入力します。ワークフローを割り当て、ワークフロー ステータスを通して QCR を送付することができます。
5. [次へ] をクリックします。[対象アイテムの追加] ページが表示されます。
6. [追加] ボタンをクリックし、1 つ以上のアイテムを追加します。[対象アイテムの追加] ウィザードが表示されます。詳細は、20 ページの「[対象アイテムを追加する](#)」を参照してください。
7. [次へ] をクリックして添付ファイルを追加します。[添付ファイルの追加] ページが表示されます。

8. [追加] ボタンをクリックし、必要に応じて添付ファイルを追加します。[添付ファイルの追加] ウィザードが表示されます。詳細は、「[PSR の \[添付ファイル\] タブ](#)」を参照してください (35 ページの「PSR の [添付ファイル] タブ」)。
9. [完了] をクリックします。

Agile Web クライアントが QCR を作成し、[カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。ワークフローが QCR に割り当てられていない場合、[未割当] ステータスとなります。ワークフローを割り当てるには、[カバー ページの] の [編集] ボタンをクリックし、[ワークフロー] ドロップダウン リストからワークフローを選択します。


[デフォルトの検証] および [デフォルトの是正・予防処置] のワークフロー ステータスは、他の送信可能なオブジェクトとは異なることに注意してください。[検証] ワークフローは [準備完了] で始まり、[是正・予防処置] ワークフローは [確認] で始まります。

注意 検証日前に、作成者および品質管理者に対して検証の催促が送信されます。[変更] 権限がある場合、[Yagile_homeYagileDomainYconfigYagile.properties](#) ファイルで検証催促日を設定することができます。パラメータ `pcm.notification.audit.reminder.backwarn.period=168` の値を編集します。デフォルト値は 168 時間 (7 日) です。

[名前を付けて保存] を使用して QCR を作成する

[名前を付けて保存] を使用して QCR を作成することができます。[名前を付けて保存] では、既存のオブジェクトのフィールドから新規オブジェクトの同じフィールドにデータがコピーされます。既存のオブジェクトのフィールドまたはリストの値が新規オブジェクトで使用できない場合、そのフィールドまたはリストの値は新規オブジェクトにコピーされません。


Java クライアントで [名前を付けて保存] 機能を使用して QCR を作成するには

1. 新規 QCR の基本となる QCR を開きます。右クリックし、[名前を付けて保存] を選択します。または、メイン ツールバーから [名前を付けて保存] を選択します。[新規オブジェクト] ダイアログ ボックスが開きます。
2. [タイプ] リストで、[検証] または [是正・予防処置] を選択します。
3. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
4. [OK] をクリックします。

Agile Java クライアントが QCR (検証または是正・予防処置 (CAPA)) を作成し、QCR が [カバー ページ] タブを最前面にして表示されます。

5. タブに必要な変更を加えます。
6. [保存] をクリックします。

Web クライアントで [名前を付けて保存] 機能を使用して QCR を作成するには

1. 新規 QCR の基本となる QCR を開きます。[アクション]>[名前を付けて保存] の順に選択します。
2. [サブクラス] リストから [検証] または [是正・予防処置] を選択します。
3. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
4. [保存] をクリックします。新規オブジェクトが開きます。

5. [編集] ボタンをクリックし、タブに適切な変更を加えます。
6. [保存] をクリックします。

注意 Agile PLM 管理者によって適切なプリファレンスが設定されている場合、オプションの [ユーザー定義 1] と [ユーザー定義 2] セクションのフィールドが新規オブジェクトにコピーされます。使用中の Agile PLM システムにおける [ユーザー定義 1] と [ユーザー定義 2] フィールドの動作については、Agile PLM 管理者にお問い合わせください。[ユーザー定義 2] のデータは特定のサブクラスにのみ適用されるため、[名前を付けて保存] を使用してサブクラスの異なる新規オブジェクトを作成した場合、[ユーザー定義 2] のデータは新規オブジェクトにコピーされません。

QCR を完了、編集する

QCR を作成した後、レポートを編集し、作成時には含まなかった情報を追加できます。また、QCR 作成時から変更された情報を編集することができます。

[カバー ページ] タブの適切なフィールドに情報を入力します。詳細は、41 ページの「[QCR の \[カバー ページ\] タブ](#)」を参照してください。

1. [対象アイテム] タブをクリックします。[追加]、[編集]、[削除] ボタンを使用して対象アイテムを追加、編集、削除できます。編集可能フィールドでテキストを入力するか、ドロップダウン リストを使用します。アイテムの追加、編集、削除は PSR と同様です。詳細は、「[PSR の \[対象アイテム\] タブ](#)」を参照してください (17 ページの「PSR の [対象アイテム] タブ」)。

[PSR アイテム] テーブルで、PSR に関連したアイテムが表示されます。[関係] タブに PSR を追加すると、これら PSR のすべてのアイテムは自動的に [PSR アイテム] テーブルに追加されます。PSR に表示されたアイテムについて検証や是正措置を行っている場合、修正がチェックまたは検証されていると、QCR は [検証] へ移行し、次に [終了] ステータスへ移行します。

2. ワークフロー ステータスを使用して QCR を送付するには、[ワークフロー] タブをクリックします。QCR 作成時にワークフローを割り当てた場合、割り当てられたワークフロー チャートがこのタブに表示されます。表示されない場合、[カバー ページ] のワークフローを選択して割り当てることができます。

[次のステータス] ボタンまたは該当するステータスをクリックして、ワークフロー チャートのワークフローのステータスを変更します。ステータスを変更する際、通知を受ける承認者とオブザーバを指定します。

3. [関係] タブをクリックします。

関係を追加するか、または既存の関係を編集します。詳細は、「[関係] タブ」を参照してください。

4. [添付ファイル] タブをクリックします。

必要に応じて添付ファイルを追加するか、または既存の添付ファイルを編集します。

適切な権限がある場合、QCR を編集することができます。(終了した QCR を編集するには特定の権限が必要です。権限がない場合は編集できません)。

QCR を編集するには


1. 編集する QCR を開きます。
2. 編集可能フィールドでテキストを入力するか、ドロップダウン リストを使用します。
3. 入力が完了したら、[保存] をクリックします。

QCR に最新版のカバー ページが表示されます。

PSR またはアイテムから QCR を作成する

PSR または個別アイテムから直接 QCR を作成することができます。QCR を使用すると、問題を送信可能な品質記録に集約して根本原因不良分析を実行し、標準の CAPA (是正・予防処置) の手順を使用して問題を解決できます。

PSR から QCR を作成すると、以下の情報がコピーされます。

- PSR が QCR の [関係] タブに追加されます。
- QCR が PSR の [関係] テーブルに追加されます。
- PSR の [対象アイテム] タブのすべての情報が QCR の [対象アイテム] タブの [PSR アイテム] テーブルに追加されます。
- QCR の [対象アイテム] タブに、PSR アイテムが含まれることを示すアイコン  が表示されます。


QCR イベントの発生時に、PSR をワークフロー内の特定のステータスに移行させるようにイベント トリガを設定することができます。

問題を終了に導くためにアイテムから QCR を作成する場合、以下の情報がコピーされます。

- アイテムは QCR の [対象アイテム] タブに追加されます。
- QCR はアイテムの [品質] タブの [QCR] テーブルに追加されます。


QCR が承認されると、変更を通してアイテムを送付することができます。これにより欠陥が修正され、アイテムが新しいリビジョンに変更されます。

Java クライアントで PSR またはアイテムから QCR を作成するには

1. QCR を作成するアイテムまたは PSR を開きます。オブジェクト ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [品質変更依頼の作成] を選択します。
2. [タイプ] リストから [検証] または [是正・予防処置] を選択します。
3. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
4. [OK] をクリックします。

Agile Java クライアントが QCR を作成します。

Web クライアントで PSR またはアイテムから QCR を作成するには

1. QCR を作成するアイテムまたは PSR を開きます。[アクション | 品質変更依頼] を選択します。[品質変更依頼] のウィザードが表示されます。
2. [サブクラス] ドロップダウン メニューから [検証] または [是正・予防処置] を選択します。
3. [番号] のフィールドで、表示された番号を受け入れます。また、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして次の番号を自動的に入力します。
4. [完了] をクリックします。

QCR が作成されます。

QCR の [カバー ページ] タブ

次の表では、QCR の [カバー ページ] タブのフィールドについて説明します。

フィールド	完了済み	内容
QCR 番号	作成時に自動入力	QCR の作成時に割り当てられる番号
QCR タイプ	作成時に自動入力	QCR の作成時に選択したタイプ (サブクラス)
カテゴリ	手動	カテゴリのドロップダウンリスト。Agile PLM 管理者が定義する。以下のような項目がある 顧客の不満 検証 - 社外 予防処置
説明	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定。スペースと改行 (2 バイト) を含め 4,000 バイトまでの入力が可能
理由	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	この QCR を作成する理由。Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定。スペースと改行 (2 バイト) を含め 4,000 バイトまでの入力が可能
顧客	手動	この QCR に関する顧客
サプライヤ	手動	サプライヤのドロップダウンリスト たとえば、サプライヤのプロセス、製品、その他の部分に問題があり、解決する必要がある場合、サプライヤについて QCR を開始して、そのサプライヤを検証したり、SCAR (サプライヤ問題対策依頼) を生成できる
ワークフロー	QCR に複数のワークフローが適用されている場合は、手動でワークフローを選択。ワークフローは、QCR が [保留中] ステータスであるかぎりいつでも変更可能[ワークフロー] ドロップダウン リストで空白のフィールドを選択すると、QCR は「未割当」のステータスに切り替わる。 ワークフローが割り当てられておらず、QCR を [未割当] ステータスから次のステータスへ移動すると、ワークフローを選択するよう促される	品質管理プロセスに従ってこの QCR を、処理するために使用するワークフローの名前

フィールド	完了済み	内容
品質管理者	ドロップ ダウン リストから手動で選択します。リストには最初に部署、次に個々のユーザー名を表示	デフォルトの品質管理者。 ワークフローがデフォルトの品質管理者に通知するよう定義されている場合、このフィールドのユーザー グループまたはユーザーは QCR に関する通知を受信する。このフィールドを空白のままにすると、リストのすべての品質管理者に通知が送信される。ワークフローの通知定義が空白の場合、通知は送信されない
ステータス	作成時に自動入力、QCR がワークフローを通過するのに従って更新	ワークフロー ステータスワークフローが選択されていない場合、このフィールドは [未割当]
作成者	通常は作成時に自動入力 (Agile PLM 管理者が設定するデフォルト値)	QCR を作成した作成者または品質管理者
作成日	通常は作成時に自動入力	この QCR が作成された日付
提出日	ワークフロー ステータスに基づいて自動生成	QCR がワークフローで [提出済み] ステータスに移行した日付
リリース日	ワークフロー ステータスに基づいて自動生成	QCR がワークフローで最初の [リリース済み] ステータスに移行した日付
最終完了日	QCR が「完了」ステータスに移行した際に自動入力	QCR が「完了」ステータスに移行した日付
予防処置	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	今後問題が再発しないようにするための事前処置。CAPA にのみ適用
根本原因分析	手動 Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定。スペースと改行 (2 バイト) を含め 1,023 バイトまでの入力が可能	問題の根本原因。 たとえば、ある問題が発生した場合、エンジニアはその問題の発生原因を詳細に調査して分析する。調査方法に関する情報を、このフィールドに入力できる。CAPA にのみ適用
検証予定日	手動	問題を検証する予定日

フィールド	完了済み	内容
検証結果	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。 たとえば、是正処置が実施される場合、品質分析者はそれによって問題が実際に解決されたかどうかを検証する。問題の解決が確認されると、検証結果は合格となる。それ以外は検証に不合格となり、品質分析者は [検証結果] フィールドを更新する	検証プロセスの結果。検証結果のデフォルト設定は、合格/不合格。管理者が検証結果のリストを定義する。詳細は、管理者へ確認のこと。 問題を検証し、結果を明示
製品ライン	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	Agile PLM 管理者によって定義された製品ラインのリスト

QCR の [対象アイテム] タブ

QCR の [対象アイテム] タブには、[対象アイテム] と [PSR アイテム] テーブルが含まれます。

[対象アイテム] テーブルには、QCR の影響を受けるアイテムが一覧表示されます。適切な権限があれば、このテーブルを編集し、この QCR により影響を受けるアイテムを追加することができます。たとえば、品質問題がアイテム A に欠陥があると報告したものの、根本原因調査の結果、欠陥が本当はアイテム B であることが判明したとします。この場合、アイテム B を [対象アイテム] テーブルに追加することができます。アイテム A は自動的に [PSR アイテム] テーブルに表示されます。QCR の [対象アイテム] タブに、PSR アイテムが含まれることを示すアイコン ● が表示されます。

[PSR アイテム] テーブルには、この QCR に関連する PR および NCR レポートで参照されるアイテムが表示されます。関係ルールに PSR に影響を与える QCR がある場合、このテーブルには自動的に値が入力されます。

- PSR を QCR [関係] タブに追加し、QCR が PSR に影響する箇所にルールを追加して、PSR を QCR と関連付けます。
- QCR を PSR [関係] タブに追加し、QCR が PSR に影響する箇所にルールを追加して、PSR を QCR と関連付けます。
- PSR から QCR を作成します。

QCR の [対象タイム] タブは PSR と類似しています。詳細は、「[PSR の \[対象アイテム\] タブ](#)」を参照してください (17 ページの「PSR の [対象アイテム] タブ」)。

注意 Agile では、QCR の [関係] タブは自動的に [影響先] に設定されます (ルールが設定されていない場合でも)。

QCR の [関係] タブ

[関係] タブを使用すると、現在の QCR と送信可能なオブジェクトおよびライフサイクル オブジェクトの間に関係と依存を作成できます。

QCR の [関係] タブは PSR と似ています。詳細は、「[関係] タブ」を参照してください。

QCR の [ワークフロー] タブ

[ワークフロー] タブには、[カバー ページ] で選択したワークフローのフローチャートが表示されます。Agile PLM ワークフローとは、送信可能なオブジェクトが従うステータスの流れで、品質管理プロセス内の様々なステータスで構成されています。オレンジの背景色 (Web クライアント) または黄色の背景色 (Java クライアント) が、現在のステータスです。[サインオフ履歴] テーブルには、QCR の過去のワークフローとサインオフの情報が表示されます。

たとえば、是正処置が採られているかどうかを認識するため、QCR をエスカレーションの管理者に送付することができます。また、詳細情報の提供を担当するサポート コール センターやフィールド サービス担当者に送付したり、実施した修正の最終承認を求めて顧客に送付したり、問題への対応を求めてサプライヤに送付することも可能です。

QCR の [添付ファイル] タブ

QCR の Agile PLM オブジェクトの [添付ファイル] タブから、ファイルと URL を参照できます。QCR の [添付ファイル] タブは PSR と類似しています。詳細は、「[PSR の \[添付ファイル\] タブ](#)」を参照してください (35 ページの「PSR の [添付ファイル] タブ」)。

QCR を提出、送付する

QCR を提出するには、[次のステータス] ボタンを使用します。このプロセスは、その他の送信可能なオブジェクトを提出する場合と同じです。QCR のステータスを切り替える前に、切り替えを妨げるエラーがないかどうか、送信可能なオブジェクトを必ず検証してください。

QCR を提出すると、品質管理者に電子メールで通知されます。品質管理者は、受信トレイの [ワークフロー送付] 部分または [品質検索] フォルダで最近提出された QCR を検索することもできます。

PSR を管理する

扱うトピックは次のとおりです。

▪ PSR を承認、却下、コメントを付ける	45
▪ PSR をリリースする	45
▪ PSR を削除する	46
▪ PSR の削除を取り消す	47
▪ PSR を終了する	47
▪ PSR のアクション メニュー	48

PSR を承認、却下、コメントを付ける

PSR のステータスが [レビュー] タイプおよび [リリース済み] タイプの場合、ツールバーの該当ボタンをクリックして PSR を承認、却下またはコメントを付けることができます。詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイド』およびスタート・ガイド』を参照してください。

注意 PSR へのコメントの追加は、[終了] 以外のすべてのステータスで行うことができます。

PSR をリリースする

[次のステータス] ボタンまたは [ワークフロー] タブを使用して PSR をリリースできます。前の [レビュー] ステータスで、[自動昇格] プロパティが [はい] に設定されている場合、すべての承認者によって変更が承認されると、送信可能なオブジェクトは自動的にリリースされます。

PSR をリリースする前に、検証してリリース検証を実行する必要があります。各ステータス レベルで、次の検証がチェックされます。

ステータス タイプが [保留中]、[レビュー]、[リリース済み] または [完了] の場合

- 現在のステータス レベルの必須フィールドがチェックされます。(必須フィールドは、Agile 管理者がワークフローのプロパティ設定で指定します。)

ステータス タイプが [レビュー] の場合

- すべての承認者による承認がチェックされます。

ステータス タイプが [リリース済み] の場合

- 現行のすべてのリリース検証ルールがチェックされます。

PSR をリリースする詳細ステップは、『Agile PLM ユーザー・ガイド』およびスタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトを送付する」を参照してください。


PSR を削除する

Agile Java クライアントは、「ソフト」削除と「ハード」削除をサポートしています。Agile データベースからオブジェクトを完全に削除するには、まずソフト削除してからハード削除する必要があります。オブジェクトのソフト削除とハード削除の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

次の場合、PSR を削除することはできません。

- PSR が QCR の [関係] タブにある場合 (PSR が現在、是正処置プロセスの一部である場合は削除できません。PSR を QCR から削除してから PSR を削除することはできます)。
- PSR が別の PSR の [関連 PSR] タブにある場合 (PSR が現在、より大きな問題の一部である場合は削除できません。この PSR を親 PSR から削除してから削除することはできます)。
- PSR が [関連 PSR] タブにある場合 (この PSR が複数の問題を集約するために使用されている場合は削除できません。関連する PSR を削除してから削除することはできます)。
- [保留中] または [未割当] 以外のステータスの場合 ([保留中] または [未割当] ステータスの場合は削除可能です)。

Java クライアントで PSR をソフト削除するには

1. PSR を選択し、開きます。
 2. ツールバーの [削除] ボタンをクリックします。 
- または、メニュー バーから [編集]>[削除] の順に選択します。

または、PSR ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [削除] を選択します。


PSR がソフト削除されます。これでその PSR は使用できなくなります。ただし、オブジェクトの番号は、オブジェクトがハード削除されるまで Agile データベース内に保管されるため、他で使用することはできません。

Web クライアントで PSR をソフト削除するには

1. PSR を選択し、開きます。
2. [アクション]>[削除] をクリックします。

PSR がソフト削除されます。これでその PSR は使用できなくなります。ただし、オブジェクトの番号は、オブジェクトがハード削除されるまで Agile データベース内に保管されるため、他で使用することはできません。

Java クライアントでソフト削除された PSR をハード削除するには (適切な権限がある場合)

1. ハード削除するソフト削除済 PSR を検索します。
[削除済みオブジェクト検索] フォルダから [削除された製品サービス依頼] を選択して、ハード削除するソフト削除済 PSR を検索します。
 2. ハード削除するソフト削除済 PSR を選択して開きます。
 3. ツールバーの [削除] ボタンをクリックします。 
- または、メニュー バーから [編集]>[削除] の順に選択します。
- または、PSR ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [削除] を選択します。
- これで、PSR はデータベースからハード削除されました。

注意 オブジェクトをハード削除すると番号がリリースされ、必要に応じて他で使用することができます。

Web クライアントでソフト削除された PSR をハード削除するには (適切な権限がある場合)


1. ハード削除するソフト削除済 PSR を検索します。
[削除済みオブジェクト検索] フォルダから [削除された製品サービス依頼] を選択して、ハード削除するソフト削除済 PSR を検索します。
2. ハード削除するソフト削除済 PSR を選択して開きます。
3. [アクション]>[削除] をクリックします。
これで、PSR はデータベースからハード削除されました。

注意 オブジェクトをハード削除すると番号がリリースされ、必要に応じて他で使用することができます。

PSR の削除を取り消す

ソフト削除されたオブジェクトはデータベースには存在しているため、必要な権限があれば削除を取り消すことができます。

Java クライアントで PSR の削除を取り消すには (適切な権限がある場合)

1. 削除を取り消すソフト削除済 PSR を検索します。
[削除済みオブジェクト検索] フォルダから [削除された製品サービス依頼] を選択して、削除を取り消すソフト削除済 PSR を検索します。
2. 削除を取り消すソフト削除済 PSR を選択して開きます。
3. ツールバーの [削除取消]  ボタンをクリックします。
4. または、PSR ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [削除取消] を選択します。
これで、PSR のデータベースからの削除は取り消されました。

Web クライアントで PSR の削除を取り消すには (適切な権限がある場合)

1. 削除を取り消すソフト削除済 PSR を検索します。
[削除済みオブジェクト検索] フォルダから [削除された品質変更依頼] を選択して、削除を取り消すソフト削除済 PSR を検索します。
2. 削除を取り消すソフト削除済 PSR を選択して開きます。
3. [アクション]>[削除取消] をクリックします。
これで、PSR のデータベースからの削除は取り消されました。

PSR を終了する

PSR は次の方法で終了する ([完了] ステータスに昇格する) ことができます。

- 適切な権限がある場合、ユーザーは PSR を手動で終了できます。
- 終了は、PSR の [関係] タブにルールを設定して PSR の結果を終了することで行われます。

PSR のアクション メニュー

[アクション] メニューには、PSR で実行可能なアクションのリストが表示されます。

- ブックマーク: 将来取り出すために、PSR をブックマークとして保存します。
- 確認通知: 確認通知により、オブジェクトの変更を作成者に通知できます。権限が必要です。
- 名前を付けて保存: 将来取り出すために、PSR をすべての版で保存します。
- 削除: PSR を削除します。
- URL をクリップボードにコピー: URL をクリップボードにコピーして、前の場所に移動できます。
- 印刷: PSR を印刷します。
- エクスポート: PSR を区切りテキスト ファイル (CSV) または Microsoft Excel Notebook にエクスポートします。
- 送信: PSR を必要な役割と権限を持つ他のユーザーに送信します。
- 共有: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を可能にします。権限が必要です。
- 品質変更依頼の作成: PSR で品質変更依頼を作成できます。
- ワークフローの表示: PSR のワークフローの現行ステータスを表示します。

QCR を管理する

扱うトピックは次のとおりです。

▪ QCR を承認、却下、コメントを付ける	49
▪ QCR を承認する	49
▪ QCR にコメントを付ける	50
▪ QCR を却下する	50
▪ QCR をリリースする	50
▪ QCR を削除する	51
▪ QCR の削除を取り消す	52
▪ QCR を終了する	52
▪ QCR のアクション メニュー	53



QCR を承認、却下、コメントを付ける

QCR のステータスが [レビュー] タイプまたは [リリース済み] タイプの場合、ツールバーの該当ボタンをクリックして QCR を承認、却下またはコメントを付けることができます。詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイド』およびスタート・ガイド』を参照してください。

QCR を承認する

QCR の承認者は、特定アイテムに対して検証または是正処置が実装され、テストされていることを確認する必要があります。

QCR を承認するには


1. 承認する QCR を開きます。  [承認] ボタンをクリックします。[承認] ウィザードが表示されます。
2. [コメント] フィールドに承認者のコメントを入力します。
3. [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。
4. グループを代表して承認する場合は、[グループとして承認] をクリックします。
QCR を承認したことをユーザーに通知することもできます。
5. 通知するユーザーを選択し、[通知] をクリックします。
6.  [承認] ボタンをクリックします。

注意 QCR へのコメントの追加は、[終了] 以外のすべてのステータスで行うことができます。

QCR にコメントを付ける

適切な権限があれば、QCR にコメントを付けて、そのコメントを作成者、レビューアおよびユーザーに通知することができます。



QCR にコメントを付けるには

1. QCR を開きます。
2. [カバー ページ] で  [コメント] ボタンをクリックします。[コメント] ダイアログ ボックスが開きます。
3. [コメント] フィールドにコメントを入力します。
4. 作成者、品質管理者およびレビューアにコメントのことを通知するには、該当するチェック ボックスを選択します。
特定ユーザーに QCR に関するコメントについて通知することもできます。
5. 通知するユーザーを選択し、[通知] をクリックします。
6. [コメント] ボタンをクリックします。

QCR を却下する

QCR が適切でない場合、却下することもできます。QCR を却下するには適切な権限が必要です。たとえば、チームが行った是正処置を品質管理者が適切でないと判断した場合、品質管理者は処置を却下することができます。

QCR を却下するには

1. 却下する QCR を開きます。
2.  [却下] ボタンをクリックします。[却下] ウィザードが表示されます。
3. [コメント] フィールドに承認者のコメントを入力します。
4. [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。
QCR を却下したことをユーザーに通知することもできます。
5. 通知するユーザーを選択し、[通知] をクリックします。
6.  [却下] ボタンをクリックします。

QCR は却下されます。

QCR をリリースする

[アクション]>[リリースの検証] をクリックして QCR をリリースします。

QCR のリリースの検証では、次のことがチェックされます。

- [関係] タブに未リリースの変更がある場合、QCR で警告が表示されるかどうか。これにより、QCR をリリースする前に、ECO だけでなく変更も確実にリリースされ、検証されるようになります。

- QCR 対象アイテムまたは PSR アイテムにあるアイテムが、変更の対象アイテム リストに存在しない場合、QCR で警告が表示されるかどうか。これにより、QCR のすべてのアイテムが 1 つ以上の関連変更に含まれるようになります。


QCR を削除する

Agile Java クライアントは、「ソフト」削除と「ハード」削除をサポートしています。Agile データベースからオブジェクトを完全に削除するには、まずソフト削除してからハード削除する必要があります。オブジェクトのソフト削除とハード削除の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

次の条件を満たす QCR を削除できます。

- [関係] タブに 1 つでも PSR がある場合は、QCR を削除できません。是正処置プロセスに問題が含まれる場合は、QCR を削除できません。
QCR から PSR を削除した後、QCR を削除する必要があります。
- [関係] タブに 1 つでも変更がある場合は、QCR を削除できません。設計変更を通じて是正処置プロセスがすでに送付された場合は、QCR を削除できません。QCR から変更を削除した後、QCR を削除する必要があります。
- [保留中] または [未割当] 以外のステータスの場合は、QCR を削除できません ([保留中] または [未割当] ステータスの場合は削除可能です)。

Java クライアントで QCR をソフト削除するには

1. QCR を選択し、開きます。
2. ツールバーの [削除] ボタンをクリックします。 

または、QCR ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [削除] を選択します。


QCR がソフト削除されます。これでその QCR は使用できなくなります。ただし、オブジェクトの番号は、オブジェクトがハード削除されるまで Agile データベース内に保管されるため、他で使用することはできません。

Web クライアントで QCR をソフト削除するには

1. QCR を選択し、開きます。
2. [アクション]>[削除] をクリックします。

QCR がソフト削除されます。これでその QCR は使用できなくなります。ただし、オブジェクトの番号は、オブジェクトがハード削除されるまで Agile データベース内に保管されるため、他で使用することはできません。

Java クライアントでソフト削除された QCR をハード削除するには (適切な権限がある場合)

1. ハード削除するソフト削除済 QCR を検索します。
[削除済みオブジェクト検索] フォルダから [削除された品質変更依頼] を選択して、ハード削除するソフト削除済 QCR を検索します。
 2. ハード削除するソフト削除済 QCR を選択して開きます。
 3. ツールバーの [削除] ボタンをクリックします。 
- または、QCR ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [削除] を選択します。

これで、QCR はデータベースからハード削除されました。

注意 オブジェクトをハード削除すると番号がリリースされ、必要に応じて他で使用することができます。

Web クライアントでソフト削除された QCR をハード削除するには (適切な権限がある場合)


1. ハード削除するソフト削除済 QCR を検索します。
[削除済みオブジェクト検索] フォルダから [削除された品質変更依頼] を選択して、ハード削除するソフト削除済 QCR を検索します。
2. ハード削除するソフト削除済 QCR を選択して開きます。
3. [アクション]>[削除] をクリックします。
これで、QCR はデータベースからハード削除されました。

注意 オブジェクトをハード削除すると番号がリリースされ、必要に応じて他で使用することができます。

QCR の削除を取り消す

ソフト削除されたオブジェクトはデータベースには存在しているため、必要な権限があれば削除を取り消すことができます。

Java クライアントで QCR の削除を取り消すには (適切な権限がある場合)

1. 削除を取り消すソフト削除済 QCR を検索します。
[削除済みオブジェクト検索] フォルダから [削除された品質変更依頼] を選択して、削除を取り消すソフト削除済 QCR を検索します。
2. 削除を取り消すソフト削除済 QCR を選択して開きます。
3. ツールバーの [削除取消]  ボタンをクリックします。
または、QCR ウィンドウを右クリックし、ショートカット メニューから [削除取消] を選択します。
これで、QCR のデータベースからの削除は取り消されました。

Web クライアントで QCR の削除を取り消すには (適切な権限がある場合)

1. 削除を取り消すソフト削除済 QCR を検索します。
[削除済みオブジェクト検索] フォルダから [削除された品質変更依頼] を選択して、削除を取り消すソフト削除済 QCR を検索します。
2. 削除を取り消すソフト削除済 QCR を選択して開きます。
3. [アクション]>[削除取消] をクリックします。
これで、QCR のデータベースからの削除は取り消されました。

QCR を終了する

適切な権限がある場合、QCR を終了する ([完了] タイプのステータスに昇格する) ことができます。一般に、QCR に関連する変更または ECO がリリースされると、品質管理者はその QCR が解決済かどうか、および終了可能かどうかを判断します。

QCR は次の方法で終了する ([完了] ステータスに昇格する) ことができます。

- 適切な権限がある場合、ユーザーは QCR を手動で終了できます。
- 終了は、QCR の [関係] タブにルールを設定することで行われます。条件を満たすと、QCR の結果は終了されます。

QCR のアクション メニュー


[アクション] メニューには、QCR で実行可能なアクションのリストが表示されます。

- ブックマーク: 将来取り出すために、QCR をブックマークとして保存します。
- 確認通知: 確認通知により、オブジェクトの変更を作成者に通知できます。権限が必要です。
- 名前を付けて保存: 将来取り出すために、QCR をすべての版で保存します。
- 削除: QCR を削除します。
- URL をクリップボードにコピー: URL をクリップボードにコピーして、前の場所に移動できます。
- 印刷: QCR を印刷します。
- エクスポート: QCR を区切りテキスト ファイル (CSV) または Microsoft Excel Workbook にエクスポートします。
- 送信: QCR を必要な役割と権限を持つ他のユーザーに送信します。
- 共有: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を可能にします。権限が必要です。
- 変更の作成:
 - QCR から直接変更を作成できます。この変更を使用することで、設計変更をリリースして、問題を解決できます。
 - この QCR から変更を作成すると、新たに作成された変更は QCR の [関係] タブに追加されます。
 - QCR イベントの発生時に、QCR をワークフロー内の特定のステータスに移行させるようにイベントトリガを設定できます。
- ワークフローの表示: QCR のワークフローの現行ステータスを表示します。

QCR から変更を作成する

QCR から直接変更を作成することで、設計変更をリリースして、問題を解決できます。QCR から作成した変更は、QCR の [関係] タブに追加されます。

Java クライアントで QCR から変更を作成するには

1. QCR を開き、QCR のカバー ページでオブジェクト ウィンドウのタブ以外の部分を右クリックして、[変更の作成] メニュー オプションを選択します。
2. [タイプ] リストから変更のオブジェクト タイプを選択します。MCO、ECO、ECR、期限付き設計変更または出荷停止を選択できます。
3. [番号] フィールドで、番号を入力するか、[自動採番] ボタン  をクリックして番号を自動的に入力します。

4. QCR と PSR の対象アイテムがすべて [対象アイテムを変更に追加] テーブルに一覧表示されます。対象アイテムと PSR アイテムのリストからアイテムを選択します。すでに変更に関連付けられているアイテムもこのリストに表示されるため、1 つのアイテムに関連付けられた複数の変更を開始できます。リストには一意なアイテムのみが表示されます (同じアイテムが対象アイテムと PSR アイテムの両方に現れる場合、リストにそのアイテムは一度しか表示されません)。
5. [OK] をクリックします。

Agile Java クライアントで変更を作成すると、新たに作成された変更は QCR の [関係] タブに追加されます。選択されたアイテムは変更の [対象アイテム] タブにコピーされます (このため、QCR がそれぞれに異なるアイテムを含む複数の変更に分割されます)。

Web クライアントで QCR から変更を作成するには

1. QCR を開いて、[アクション]>[変更の作成] メニュー オプションを選択します。
2. [サブクラス] リストから変更のオブジェクト タイプを選択します。MCO、ECO、ECR、期限付き設計変更または出荷停止を選択できます。
3. [番号] フィールドで、番号を入力するか、[自動採番] ボタン 123 をクリックして番号を自動的に入力します。
4. QCR と PSR の対象アイテムがすべて [対象アイテムを変更に追加] テーブルに一覧表示されます。対象アイテムと PSR アイテムのリストからアイテムを選択します。すでに変更に関連付けられているアイテムもこのリストに表示されるため、1 つのアイテムに関連付けられた複数の変更を開始できます。リストには一意なアイテムのみが表示されます (同じアイテムが対象アイテムと PSR アイテムの両方に現れる場合、リストにそのアイテムは一度しか表示されません)。
5. [完了] をクリックします。

Agile Web クライアントで変更を作成すると、新たに作成された変更は QCR の [関係] タブに追加されます。選択されたアイテムは変更の [対象アイテム] タブにコピーされます (このため、QCR がそれぞれに異なるアイテムを含む複数の変更に分割されます)。